文教福祉常任委員会

平成26年3月14日（金曜日）

文教福祉常任委員会

平成26年3月14日（金曜日）

付議事件

《付託議案》

- 議案第 1 号 平成26年度旭市一般会計予算の議決についてのうち本委員会所管事項
- 議案第 2 号 平成26年度旭市国民健康保険事業特別会計予算の議決について
- 議案第 3 号 平成26年度旭市後期高齢者医療特別会計予算の議決について
- 議案第 4 号 平成26年度旭市介護保険事業特別会計予算の議決について
- 議案第 8 号 平成26年度旭市病院事業会計予算の議決について
- 議案第 9 号 平成25年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項
- 議案第10号 平成25年度旭市国民健康保険事業特別会計補正予算の議決について
- 議案第11号 平成25年度旭市介護保険事業特別会計補正予算の議決について
- 議案第14号 平成25年度旭市病院事業会計補正予算の議決について
- 議案第16号 旭市歯と口腔の健康づくり推進条例の制定について
- 議案第24号 旭市立保育所条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第25号 旭市児童遊園設置条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第26号 旭市ひとり親家庭等医療費等の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第27号 旭市土砂等の埋立て等による土壌の汚染及び災害の発生の防止に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第31号 旭市社会教育委員に関する条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第33号 旭市病院事業使用料及び手数料条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第34号 訴えの提起について
- 議案第35号 指定管理者の指定について

《付託陳情》

- 陳情第 2号 年金2.5%削減の中止を求める意見書提出を求める陳情

出席委員（8名）

委員長	林 七 巳	副委員長	島 田 和 雄
委員	林 正一郎	委員	佐久間 茂 樹
委員	景 山 岩三郎	委員	伊 藤 房 代
委員	米 本 弥一郎	委員	高 橋 秀 典

欠席委員（なし）

委員外出席者（5名）

議長	高 橋 利 彦	議員	向 後 悦 世
議員	宮 内 保	議員	有 田 惠 子
議員	林 晴 道		

説明のため出席した者（29名）

教 育 長	多 田 哲 雄	財 政 課 長	加 瀬 正 彦
税 務 課 長	佐 藤 一 則	環 境 課 長	新行内 弘
保険年金課長	加 瀬 喜 久	健康管理課長	野 口 國 男
社会福祉課長	加 瀬 恭 史	子育て支援課長	山 口 訓 子
高 齢 者 福 祉 課 長	石 毛 健 一	病院事務部長	菅 谷 敏之史
庶 務 課 長	横 山 秀 喜	学校教育課長	菅 谷 充 雅
生涯学習課長	佐久間 隆	体育振興課長	石 嶋 幸 衛
病院経理課長	土 師 学	病 院 総 務 課 長	河 北 隆
病院医事課長	片 見 武 寿	そ の 他 担 当 員	1 2 名

事務局職員出席者

事 務 局 長	伊 藤 恒 男	事 務 局 次 長	向 後 嘉 弘
主 査	榎 澤 茂		

開会 午前10時 0分

○委員長（林 七巳） おはようございます。

3月というのにちょっと天候が不順なため、健康には皆さん留意していただきたいと思えます。

それでは、大変お忙しい中、ご苦勞さまでございます。

ここで、委員会を開催する前に、あらかじめご了承願います。

議会だより取材のため、この後、職員が委員会室内の写真撮影を行いますので、ご了承願います。

ただいまの出席委員は8名、委員会は成立いたしました。

それでは、文教福祉常任委員会を開催いたします。

初めに、私よりお願い申し上げます。

本日は、改選後初の文教福祉常任委員会となります。この後、議案審査等における質疑については、当委員会に付託された議案等と所管事項の報告に係るものに限られますので、各委員におかれましてはよろしくお願いいたします。

なお、向後悦世議員、宮内保議員、有田恵子議員、林晴道議員より、本委員会を傍聴したいとの申し出がありました。これを許可いたしましたので、ご了承お願いいたします。

また、市民より傍聴したい旨の申し出があり、これを許可いたしましたので、併せてご了承お願いいたします。

それでは、しばらく休憩いたします。委員の皆様はそのまま自席でお待ちください。

休憩 午前10時 2分

(傍聴者入室)

再開 午前10時 2分

○委員長（林 七巳） 休憩前に引き続き会議を開きます。

本日、高橋議長にご出席をいただいておりますので、ご挨拶をお願いいたします。

○議長（高橋利彦） おはようございます。

きのうは春の嵐が吹き荒れましたが、きょうはそれも上がりました。委員の皆さん方には

大変お忙しい中、ご苦勞さまでございます。

本日は、付託いたしました議案18議案と陳情1件について審査をいただくことになっております。どうぞよろしく慎重なるご審議のほどをお願い申し上げまして、簡単ではございますが挨拶に代えさせていただきます。

なお、林七巳委員長、よろしくお願い申し上げます。

○委員長（林 七巳） ありがとうございます。

議案等説明のため、教育長、担当課長及び職員の出席を求めました。

それでは、執行部を代表して多田教育長よりご挨拶をお願いいたします。

○教育長（多田哲雄） おはようございます。

文教福祉常任委員会の開催に当たりまして、執行部関係各課を代表しご挨拶を申し上げます。

日ごろより、委員の皆様には多方面にわたりご指導、ご支援をいただき、誠にありがとうございます。昨日ですが、中学校4校の卒業式が終わりまして、あしたの第二中学校で中学校5校全て終了いたします。そして、来週には小学校の卒業式、また4月に入りましたら小学校、中学校の入学式が挙行されますので、公私ともご多忙とは存じますが、皆様におかれましては、ご臨席の上、子どもたちの門出へのご祝福をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

本日は、付託されました議案第1号のほか、17議案についてのご審議をいただくこととなります。答弁は簡潔、明瞭になるよう努めてまいりますので、ご審議のほどよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○委員長（林 七巳） ありがとうございます。

議案の説明、質疑

○委員長（林 七巳） ただいまから本委員会に付託されました議案の審査を行います。

去る3月4日の本会議におきまして、本委員会に付託されました議案は、議案第1号、平成26年度旭市一般会計予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、議案第2号、平成26年度旭市国民健康保険事業特別会計予算の議決について、議案第3号、平成26

年度旭市後期高齢者医療特別会計予算の議決について、議案第4号、平成26年度旭市介護保険事業特別会計予算の議決について、議案第8号、平成26年度旭市病院事業会計予算の議決について、議案第9号、平成25年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち本委員会所管事項について、議案第10号、平成25年度旭市国民健康保険事業特別会計補正予算の議決について、議案第11号、平成25年度旭市介護保険事業特別会計補正予算の議決について、議案第14号、平成25年度旭市病院事業会計補正予算の議決について、議案第16号、旭市歯と口腔の健康づくり推進条例の制定について、議案第24号、旭市立保育所条例の一部を改正する条例の制定について、議案第25号、旭市児童遊園設置条例の一部を改正する条例の制定について、議案第26号、旭市ひとり親家庭等医療費等の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第27号、旭市土砂等埋立て等による土壌の汚染及び災害の発生防止に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第31号、旭市社会教育委員に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第33号、旭市病院事業使用料及び手数料条例の一部を改正する条例の制定について、議案第34号、訴えの提起について、議案第35号、指定管理者の指定について、この18議案であります。

初めに、議案第1号中の所管事項について、担当課より補足説明がありましたらお願いいたします。

保険年金課長。

○**保険年金課長（加瀬喜久）** それでは、議案第1号、平成26年度旭市一般会計予算の議決について、保険年金課所管の事項について補足説明を申し上げます。

初めに、歳入について申し上げます。

予算書の21ページをお願いいたします。

このページの下になりますが、13款1項1目民生費国庫負担金の1節社会福祉国庫負担金の説明欄4、保険基盤安定負担金2,679万9,000円は、国保保険者支援分としての一般会計繰出金の2分の1の額であります。

続いて、24ページをお願いいたします。

3項2目民生費委託金、1節社会福祉委託金の説明欄になります。国民年金事務費交付金1,765万円は、国民年金事務に要する人件費等の経費に係る交付金であります。

続いて、25ページをお願いいたします。

14款1項1目民生費県負担金の1節社会福祉費県負担金の説明欄3、保険基盤安定負担金2億118万4,000円は、保険者支援分としての一般会計繰出金の4分の1の額及び保険税軽減

分としての一般会計繰出金の4分の3の額であります。

2節老人福祉費県負担金の説明欄になりますが、後期高齢者医療保険基盤安定負担金1億1,178万1,000円は、後期高齢者医療に係る保険料軽減分としての一般会計繰出金の4分の3の額であります。

次に、36ページをお願いいたします。

19款諸収入、5項4目1節雑入の説明欄29になります。後期高齢者医療制度長寿・健康増進事業補助金222万9,000円ですが、これは千葉県後期高齢者医療広域連合からの補助金でありまして、飛びまして歳出の103ページをお願いいたします。3款民生費、2項2目後期高齢者医療費の説明欄4、後期高齢者短期人間ドック助成事業及び歳出の105ページになります。3目の生活支援者の説明欄4、はり・きゅう・マッサージ等利用助成事業並びに、飛びまして歳出の132ページ、4款衛生費、1項2目予防費の説明欄5、感染予防対策事業における肺炎球菌ワクチン接種費用助成金のうち後期高齢者分が補助対象となっております。補助率については、人間ドックが100%、それ以外は40%を見込んでおります。

続きまして、歳出について申し上げます。

100ページをお願いいたします。

3款民生費の1項4目国民健康保険費の説明欄2、国民健康保険事業特別会計繰出金であります。国保保険基盤安定保険料軽減分繰出金から国保財政安定化支援事業繰出金まではルール分として事業勘定へ、国保その他繰出金は国保税率抑制のために事業勘定へ繰り出すものであります。

103ページをお願いいたします。

2項2目後期高齢者医療費の説明欄をご覧ください。

説明欄2の広域連合負担金4億5,934万2,000円ですが、これは千葉県後期高齢者医療広域連合における関連経費と後期高齢者に係る療養費のうち、旭市の負担分を計上するものでございます。

説明欄3の後期高齢者医療特別会計繰出金1億6,261万円ですが、これは一般会計から後期高齢者医療特別会計への事務費と保険料軽減分に係る繰出金であります。

説明欄4の後期高齢者短期人間ドック助成事業は、国民健康保険と同様に短期人間ドック受検費用の70%、3万円を限度に助成するもので、受検者は50名を予定しております。なお、この助成額に対しては、広域連合より全額補助金として交付されます。

以上でございます。

○委員長（林 七巳） 健康管理課長。

○健康管理課長（野口國男） それでは、健康管理課所管に係ります議案第1号の補足説明を申し上げます。

初めに、歳入のほうから申し上げます。

予算書23ページをお願いしたいと思います。

13款2項3目衛生費国庫補助金、説明欄1番、がん検診推進事業補助金170万1,000円ですが、がん検診に伴う補助金でありまして、子宮頸がん、乳がん、大腸がん検診のうち補助対象となる節目年齢の受診者に係る補助金で、補助率は2分の1となります。

続きまして、26ページをお願いしたいと思います。

14款2項2目衛生費県補助金、説明欄1番、健康増進事業費補助金195万円ですけれども、肝炎ウイルス検診、骨粗鬆症予防検診、歯周疾患検診などの成人健康診査と健康教育、健康相談事業に係る補助金で、補助率は3分の2になります。

次に、歳出について申し上げます。

131ページをお願いしたいと思います。

4款1項2目予防費、説明欄4番、がん検診事業8,636万6,000円ですけれども、胃がん、乳がん、肺がん及び子宮頸がんの4種類のがん検診を各保健センターで集団検診として実施いたします。そのほか、大腸がんと前立腺がんに係るがん検診につきましては、市内の医療機関での個別検診として実施するものであります。

続きまして、133ページをお願いしたいと思います。

4款1項3目母子保健費、説明欄1番、妊婦・乳幼児健康診査事業5,672万9,000円ですけれども、まず集団健診といたしまして飯岡保健センターにおいて実施いたします4か月児、1歳6か月児、3歳児の健康診査、そして2歳の歯科健康診査に係る費用であります。

そのほか、次の134ページをお願いしたいと思います。

説明欄20節の扶助費になりますけれども、妊婦・乳児一般健康診査に対する助成金でありまして、医療機関におきまして個別に行っていただくものでございますけれども、妊婦として定められております14回の健診費用500人分と9か月から11か月の乳児に対する一般健康診査費用500人分を助成するものであります。

以上で、健康管理課所管の補足説明を終わります。よろしく願いいたします。

○委員長（林 七巳） 社会福祉課長。

○社会福祉課長（加瀬恭史） それでは、議案第1号について、社会福祉課所管事業のうち、

本会議並びに全員協議会で事業として説明しなかった点について、補足説明申し上げます。

歳入からご説明いたします。

22ページをお願いいたします。

上段になりますが、13款1項1目3節生活保護費国庫負担金、説明欄1の生活保護費負担金5億3,914万7,000円は、生活保護扶助費の国負担分であります。

次に、同じページの下段になりますが、2項2目1節社会福祉費国庫補助金、説明欄1の地域生活支援事業費等補助金3,816万7,000円は、地域生活支援事業の国負担分であります。

29ページをお願いいたします。

一番下の段になります、3項2目2節災害救助費委託金、説明欄1の県外避難者災害救助費委託金168万円は、福島県からの避難者への住宅扶助費2世帯分に係る委託金であります。

次に、35ページをお願いいたします。

下から2番目の段になります、19款5項3目1節過年度収入、説明欄1の生活保護法第73条分1,650万円は、生活保護法第73条において、市内に住所がない、または明らかでない者への給付費に係る市の負担分でありまして、これにつきましては県が負担することになっております。この収入は、平成25年度において県が負担すべき給付費を26年度に受け入れることから、過年度収入になるものであります。

続きまして、歳出の事項についてご説明いたします。

97ページをお願いいたします。

3款1項2目障害福祉費、説明欄9の地域生活支援事業9,200万5,000円は、障害者総合支援法に基づきまして、障害者の皆さんが地域において自立して日常生活が送れるように相談支援や創作活動の機会を提供等、さまざまな事業を実施するものであります。

飛びまして、120ページをお願いいたします。

4項2目扶助費、説明欄1、生活保護扶助費7億1,886万7,000円は、平成26年度の年間保護世帯数を358世帯、保護人数を428人と見込みまして計上したものでございます。

次に、121ページをお願いします。

5項1目災害救助費、説明欄2、東日本大震災災害救助費168万円は、東日本大震災の被災者に対して、福島県からの避難者への住宅扶助費2世帯分を計上したものでございます。

以上で社会福祉課所管の補足説明を終わります。よろしく申し上げます。

○委員長（林 七巳） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（山口訓子） それでは、議案第1号、平成26年度旭市一般会計予算の議決

について、子育て支援課所管事業のうち、本会議並びに全員協議会で主要事業としてご説明しなかった点について、補足説明を申し上げます。

予算書の26ページをお願いいたします。

歳入でございますが、14款2項1目民生費県補助金の3節児童福祉費県補助金の説明欄5の子育て安心応援事業費補助金2,203万2,000円は、旭市次世代育成支援行動計画に基づき実施する地域子育て支援センター運営事業、つどいの広場事業、一時預かり事業等と、干潟町中央保育園改修工事に対する県補助金で、補助率は2分の1となっております。

次に、歳出でございますが、予算書の107ページをお願いいたします。

3款3項1目児童福祉総務費の8億4,889万6,000円は、前年度比8,027万8,000円、10.4%の増となっております。主な理由といたしましては、予算書の109ページをお願いいたします。一番下の説明欄8の児童扶養手当給付事業2億6,821万8,000円、前年度比304万8,000円、1.1%の増で、ひとり親世帯等の受給者が増加したことによるものです。

続きまして、予算書の112ページをお願いいたします。

説明欄14の子育て世帯臨時特例給付金給付事業8,405万5,000円は、これは全員協議会のほうでご説明申し上げましたが、単年度事業としてこの給付金の予算の計上をしたもので、増となっている主な理由の一つでございます。

続きまして、予算書の114ページをお願いいたします。

4目保育所費の15億6,435万6,000円は、前年度比3億646万円、16.4%の減となっております。この主な理由といたしましては、飯岡地域保育所統合整備事業3億6,208万6,000円の減で、統合保育所の建設が終了したことによるものでございます。

続きまして、117ページをお願いいたします。

下から2つ目になりますが、説明欄5、保育所施設改修事業469万8,000円は、私立保育所の干潟町中央保育園改修工事に対する補助金を計上したもので、工事費の4分の3を助成するものです。

続きまして、次の118ページをお願いいたします。

説明欄7、一時預かり事業1,225万3,000円は、前年比281万1,000円、29.8%の増で、これは新しく開設される市立いいおか保育所において、専用室を設けて一時預かり事業を実施するためのものでございます。

以上で、議案第1号、子育て支援課所管の補足説明を終わります。

○委員長（林 七巳） 高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（石毛健一） 高齢者福祉課所管分について、補足説明申し上げます。

予算書の101ページをお開きください。

最初に、歳出になりますけれども、3款民生費、2項1目老人福祉総務費の説明欄3、老人保護措置費6,192万2,000円は、経済的な理由等により自宅における生活が困難な低所得の高齢者を養護老人ホームに措置するための費用で、32人分の費用を見込んでおります。

これに関連します歳入ですが、18ページに戻っていただきまして、11款分担金及び負担金、1項1目民生費負担金、1節老人福祉費負担金の説明欄1、老人施設入所者負担金623万2,000円で、措置された方も収入に応じて負担していただくことから、この負担金を歳入として見込んだものであります。

また、歳出に戻りまして、104ページをお願いいたします。

2項3目生活支援費の説明欄1、地域包括支援センター運営事業の13委託料750万2,000円は、要支援1及び2に該当する要支援認定者のケアプラン作成委託料で、作成件数を全体で2,700件と見込み、そのうち1,716件の委託を見込んだものでございます。要支援認定者のケアプランの作成につきましては、地域包括支援センターの職員だけで全て作成することが困難なため、居宅介護支援事業所に委託するものでございます。

これに対します歳入は、また36ページにお戻りになっていただきまして、雑入の説明欄17に全体のケアプラン作成料といたしまして2,700件分、1,166万4,000円を介護予防サービス計画費収入として計上してございます。これがケアプラン作成委託料を含む地域包括支援センター運営事業778万5,000円の財源となります。介護予防サービス計画費収入との差額387万9,000円は、老人福祉関係職員給与費の一部として充当いたします。

また、歳出に戻りまして、105ページをお願いいたします。

説明欄5、緊急通報体制等整備事業の13委託料718万円は、ひとり暮らし高齢者等の在宅生活を支援するため、緊急通報装置を設置するものであります。設置台数202台を見込みました。

説明欄6、家族介護支援事業については、これまで家族介護慰労金支給事業として要介護4または5と認定され、寝たきりで日常生活全般において介護を要する方を同居して介護している家族に対し家族慰労金として支給されていたものを、行政改革の一環として取り組んでおります事務事業評価における外部評価、二次評価を経て、より有効な支援事業とするため事業の見直しを行い、支給対象者の要件を市民税非課税世帯または市民税所得割非課税世帯に属する同居の家族介護者として、支給額を月額8,000円から1万2,000円に増額し、支援

金として支給するものであります。なお、既に支給を受けている方につきましては、これまでどおりの支給となります。事業名については家族介護支援事業と変更して、20扶助費638万4,000円、対象者を93人と見込みました。

以上でございます。

○委員長（林 七巳） 環境課長。

○環境課長（新行内 弘） 議案第1号について、環境課所管の補足説明を申し上げます。

なお、全員協議会で主要事業として3つの事業の説明をさせていただきました。それ以外のその他の新規事業について、2点補足説明させていただきます。

それでは、予算書の138ページをお開きください。

歳出になります。4款1項4目説明欄18の備品購入費67万4,000円ですが、これは平成25年度から小型家電リサイクル法が施行され、県内の市町村では順次取り組んでいるところでございます。本市は、平成26年10月から実施する予定で、広く市民に周知を図る目的から、本所を含め各支所に対象品目を提示した回収ボックスを設置する費用でございます。また、広報あさひや市ホームページでのPRや各地区へ啓発チラシを配布するなど、市民の皆様にご迷惑が生じないよう努めてまいりたいと思います。

続きまして、予算書の142ページをお開きください。

歳出でございます。4款1項5目説明欄13の委託料のうち騒音調査等委託料103万7,000円でございますが、これは国の権限移譲により騒音規制法第18条に基づき主要幹線道路を対象とした自動車騒音調査業務で、測定結果については環境省に報告するものでございます。なお、測定場所は、国道126号・袋西交差点付近と国道126号・飯岡バイパス入り口交差点付近の2か所でございます。

また、消費税率の引き上げに伴いまして、旭市指定のごみ袋料金の値上げはいたしません。なお、このごみ袋の料金の値上げについては、4月1日の広報あさひ等で周知を図りたいと思っております。

以上で、環境課所管の補足説明を終わります。

○委員長（林 七巳） 庶務課長。

○庶務課長（横山秀喜） それでは、議案第1号につきまして、庶務課所管の、同じく全員協議会で説明させていただいた以外の事業について、何点か補足説明をさせていただきます。

予算書の225ページをお開きください。

歳出になります。10款2項1目説明欄1の小学校施設管理費です。1億5,372万8,000円で、

小学校15校に係る通常の施設管理費でありまして、内訳は説明欄記載のとおりとなります。新しいものとして、13節委託料の下から2番目特殊建物調査委託料は3年に一度実施するもので、面積要件に該当しない琴田小、矢指小、三川小を除く12校分を計上させていただきました。

続きまして、予算書の227ページをお開きください。

説明欄3の小学校施設改修事業は5,428万6,000円で、15節工事請負費4,548万6,000円は、嚶鳴小学校と三川小学校の高圧受電設備改修工事と、その他老朽化及び危険箇所等の改修工事に係る経費であります。

続きまして、予算書の232ページをお開きください。

10款3項1目説明欄1の中学校施設管理費です。7,354万7,000円で、中学校5校に係る経費で、内訳は記載のとおりとなっております。小学校施設管理費で申し上げましたが、委託料の一番下の特殊建物調査委託料は5校分の経費でございます。

続きまして、234ページをお開きください。

説明欄3の中学校施設改修事業は、6,550万9,000円で、15節工事請負費5,621万5,000円は、干潟中学校屋外運動場整備工事と、そのほか老朽化及び危険箇所等の改修工事に係る経費でございます。

説明欄4の中学校大規模改造事業は、1,900万円で、第一中学校の実施設計の経費を見込みました。

以上で、庶務課の補足説明を終わります。

○委員長（林 七巳） 学校教育課長。

○学校教育課長（菅谷充雅） それでは、議案第1号、学校教育課所管の補足説明を申し上げます。

主要事業につきましては、先日の全員協議会で説明させていただきましたが、それ以外2点につきまして補足説明をさせていただきます。

歳出になります。予算書の222ページをお開きください。

10款1項2目説明欄9、学校いきいきプラン事業の補助金1,060万円でございますけれども、各小・中学校の裁量権を生かして主体的に特色ある教育活動を展開するものでございます。金額につきましては、規模の大きな中央小学校と第二中学校につきましては、1校当たり80万円、その他の18校につきましては、1校当たり50万円を補助するものでございます。

続きまして、予算書の238ページをお願いいたします。

3項2目説明欄8、課外活動支援事業の報奨金の80万円でございますけれども、これは中学校の部活動の活性化を図るため、専門的な指導者を必要とする中学校に地元の指導員等を校長の要請により派遣するものでございます。

以上で、学校教育課所管の補足説明を終わりにします。よろしく申し上げます。

○委員長（林 七巳） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐久間 隆） それでは、議案第1号について、生涯学習課から、先の全員協議会でご説明いたしました主要事業以外の、新規事業の予算の補足説明を申し上げます。

初めに、予算書の264ページをお開きください。

最初に、歳出になります。

10款4項11目説明欄15の工事請負費655万3,000円ですが、文化財改修工事費として611万3,000円、解体・撤去工事費として44万円であります。

文化財改修工事につきましては、大原幽学遺跡史跡公園内、旧林家住宅のカヤぶき屋根のふき替え工事でありまして、前回平成9年にふき替えを行っておりますが、損傷が著しく、修復するために実施するものであります。材料となる良質のカヤ、竹の資材を調達する関係から26・27年度の2か年事業として、平成26年度は西側部分の屋根のふき替え約142.2平方メートルを予定しております。

これに関連する歳入ですが、お手数ですが28ページをお開きいただきたいと思っております。

下から2行目になります。工事費611万3,000円の補助率2分の1内ということで、2分の1を見込みまして305万6,000円を文化財保存整備事業補助金として見込んでございます。

申し訳ありませんが、もう一度264ページをお開きいただきたいと思っております。

解体・撤去工事につきましては、旧キャンプ場進入路の撤去工事でありまして、キャンプ場の廃止に伴い賃貸借契約を平成24年3月をもって解除しましたが、所有者より進入路としてきた部分のコンクリート舗装部分、それと碎石について撤去するよう要望がありましたので、実施するものでございます。

なお、既にご承知のとおり、3月16日の日曜日、午前10時半より、大原幽学先生没後150年祭並びに大原幽学遺跡復旧事業記念式典を旧林家前で実施いたしますので、ご臨席を賜りますようお願いいたします。駐車場から会場までちょっと距離がありまして、坂道もありますので、駐車場から会場までは送迎車を用意してございますので、どうぞお使いいただきたいと思っております。

以上で、議案第1号、生涯学習課所管の補足説明を終わります。

○委員長（林 七巳） 担当課の説明は終わりました。

議案第1号について、質疑がありましたらお願いいたします。

島田委員。

○委員（島田和雄） まず最初に、19ページ、使用料・手数料の中の3目衛生使用料、説明欄で言いますと1番目の海上健康増進センターの使用料ですけれども、本年度の見込みが424万円になっておりますが、去年は調べましたら350万円くらいの予算ということだったんです。この後、使用料の見直しの議案も出てまいりますけれども、その中でこれまで使用料が1人400円ですね、入った場合取られていたんですけれども、この見直しによりまして200円ですか、海上健康増進センターはトレーニングルームとプールがありまして、そういった中で400円というようにこれまでは取られていたんですけれども、見直しによりましてそれぞれの施設を分けて200円ずつということになりました。

そういった中で、実質的な値下げではないのかなというふうに私は思っているんですけれども、そういった中で、この使用料を去年より多目に見ているということについて、1点質問いたします。

それから、105ページ、先ほど課長のほうから説明がありました、説明欄の6番目ですか、家族介護支援事業ですけれども、これも昨年よりも予算が少なくなっておりまして、今説明をお伺いしましたら、事務事業評価で該当者を限ったわけですね、今度、そういうことですよ。どのような話し合いがされたのか、その辺について理由をお伺いしたいと思います。

それから、137ページ、一番上段で東総衛生組合の負担金についてですけれども、これは先日の説明で東総衛生組合の施設の償還が始まったということで、その負担金が増えてきたというようなことでありますけれども、旭市の負担金、全体の中で組合の中での負担はどのくらいの割合かということと、割合で幾ら払っているかと、それから今後この償還が何年ぐらい続くのか、お伺いします。

もう1点ですけれども、147ページになります。説明欄15番の工事請負費の中の焼却施設改修工事1億4,498万6,000円ですね。この金額なんですけれども、この焼却施設の改修工事につきましては、今年もこれだけの費用を見ておりますけれども、これまでずっと数年にわたりまして1億円以上の工事費というのがかかっておりました。どのような工事をしているのかお伺いします。

以上4点、よろしく申し上げます。

○委員長（林 七巳） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

健康管理課長。

○健康管理課長（野口國男） それでは、1点目の海上健康増進センターの使用料の関係でありますけれども、今年、平成25年は350万4,000円を見込んでおりますけれども、26年度につきましては424万3,000円ということで、かなりアップするような形で見込ませていただきました。というのは、現在登録制度をとっております、日増しに増えるような状況です。健康志向が高くなったということもあるかと思っておりますけれども、現在5,100人の登録者がおります。その中で、今年度の利用状況から推測をしたわけですが、それと過去3か年程度ですね、その伸び率を考慮いたしまして、この金額を424万3,000円というようなことで使用料をのせさせていただきます。

ちなみに25年度の状況ですけれども、1月末で昨年よりも11%を上回る1万7,263人の方に使っていただいておりますので、そういった伸び率を考慮しての金額ということでご了解をいただきたいと思っております。ただし、今回使用料の改正をさせていただくわけですが、26年度ですね、この数字につきましては勘案してございません。

以上です。よろしくお願いいたします。

○委員長（林 七巳） 高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（石毛健一） 先ほども補足説明で申し上げましたけれども、市の事務事業評価の中で外部評価、二次評価で県内の状況、近隣市の状況、あと一番大きな問題となったのは、高額所得者も低所得者も同じ支給をしているという状況がございました。そこで、そういうことを鑑みまして、高齢者はその介護者は家庭で支えるのを大前提としまして、制度を維持し、非課税世帯を厚くしてサービスをしようということでございます。

以上でございます。

○委員長（林 七巳） 環境課長。

○環境課長（新行内 弘） それでは、委員のご質問なんですけれども、137ページの東総衛生組合の負担金でございますけれども、この東総衛生組合の負担金については、構成市、旭市と匝瑳市、多古町、横芝光町でございます。負担金の割合の内容につきましては、旭市48.51%、匝瑳市29.41%、多古町12.83%、横芝光町9.25%でございます。

衛生組合の施設の償還についてでございますけれども、元金・利子を含め平成26年度5,722万4,000円でございます。そのうち旭市の負担割合は、先ほど申しました48.51%で、2,775万4,000円となっております。残りの額については、衛生組合の運営費分となります。

施設の償還は、元金据え置きは3年で、平成26年度から平成38年度まで15年間でございま

す。償還金の利子につきましては、平成23年度から行っているところでございます。

以上でございます。

(発言する人あり)

○環境課長（新行内 弘） 失礼しました。

147ページの焼却施設の改修工事1億4,498万6,000円でございますけれども、この工事内容につきましては毎年実施しております。主な工事の内容につきましては、焼却施設のごみ投入ホッパーの補修工事、それから一番大事な築炉のれんがの積み替え工事、電気集じん機の整備、灰出し設備の補修工事、それから給水・排水処理施設の修繕工事となっております。当然、実施前には再度調査、点検をして、設計の精査業務を実施しているところでございます。

以上でございます。

○委員長（林 七巳） 島田委員。

○委員（島田和雄） 家族介護支援事業ですけれども、高額所得者については自分で負担してもらおうというような考え方だったと思いますけれども、所得のあれははっきりしているんですか、所得金額が幾ら以上と。

○委員長（林 七巳） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（石毛健一） 所得につきましては、市民税非課税世帯と市民税均等割非課税世帯を対象として今度実施するということです。ですから、市民税がかかっている方はこれからは該当しないということです。申請していただきまして、それに伴いまして税務課のほうで調査させていただいて、支給の決定をする状況でございます。

○委員長（林 七巳） 島田委員。

○委員（島田和雄） 市民税がかかっている人は対象にならないというようなお答えでしたけれども、この家族介護支援事業については、総体的に考えてみましてね、介護3と4の方について、自宅で介護をしていただける家庭に対しての補助事業ですよ。月額8,000円ですか。月額8,000円の補助金を出すことについて、こういった支援をしたわけなんですけれども、できれば高額所得者といいますか、対象外の方について、それならば介護施設に入れようかと考える人も出てくる可能性もありますよね。そうしますと、公費の負担といいますか、税金の負担が大変になってくると思います。介護4から5といいますとかなりの負担が公費で発生するわけなんですよね。

そういうことを考えますと、できればこれからはこういった介護も家庭でやっていただきたいというのが皆さんの大きな流れだと思いますので、そういった中では、やはりこういった制度に制限を設けなくてやっていったほうがいいんじゃないかなというふうに思いますけれども、その辺については議論はされたんでしょうか。

○委員長（林 七巳） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（石毛健一） その議論は当然出ました。出ましたけれども、近隣の状況を見ますと、課税世帯には出しているというところが、県内では3か所ということで、それも成田市とか財政力の高い市町村もやっていますので、今回できれば見直したいということで、行政改革の中で結論がでたということです。

以上です。

○委員長（林 七巳） ほかに質疑はありませんか。

景山委員。

○委員（景山岩三郎） どうもご苦労さまです。

19ページが一番上、学校給食費、この2億7,000万円は何食分を予定しているのか。負担金でしょう、これ2億7,000万円。それと、前から問題になっている、食べて払わない方の人数と金額、教えてください。

○委員長（林 七巳） 景山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

学校教育課長。

○学校教育課長（菅谷充雅） これは、結局子どもの数となりますが、ただ、要保護とかそういった保護を受けている方々については免除させていただいておりますので、今すぐに数が出てこないんですけれども、現在、市内の小・中学生が5,200人おまして、そのうち補助を受けている子がですね、ちょっとお待ちください。今、正確な数字が出ませんので、すみません、お時間をいただいてよろしいでしょうか。大至急調べてまいりますので。

それから、給食費の未納の数なんですけれども、こちらのほうも、今年度にかけて未納の額はだいぶ減ってきております。特に現年度につきましては99%以上の収納率になっておりますので、現年については学校のほうでかなりお願いをしておりますし、また、私のほうで、毎回、校長会で各学校別の収納状況をお願いしておりますので、また給食センター、あるいはこちらからも一人一人にかなり取り組みを強化しておりますので、これは改善されております。こちらのほうの数値も、今率で言えば99%を超えているという状況でございます。た

だ、過年度につきましては、こちらのほうも今一生懸命取り組んでいるんですけれども、なかなか解消できていない。ただ、数値のほうは上がってきておりますが、こちらのほうもお時間をいただきまして、大至急調べますので、お待ちいただければと思います。よろしくお願いいたします。

○委員長（林 七巳） 景山委員。

○委員（景山岩三郎） では、課長、後でそれ調べておいて、すみませんけれども、お願いいたします。

それと、確かに未納の方の回収率は大変難しいと思うんですよ。けれども、努力して。中にはあれですよ、払えないこともないでしょうという人もだいぶいるようですのでね、ひとつ努力して回収に当たってもらいたいと思います。公平性を保つためをお願いいたします。

○委員長（林 七巳） 景山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

学校教育課長。

○学校教育課長（菅谷充雅） 今、第一、第二合わせまして、現時点で滞納といたしますか、支払が行われていない世帯が87世帯、金額に直しますと163万6,760円という滞納状況でございます。

それから、負担の人数でございますけれども、ちょっとお待ちください、計算します。小学校1年生から6年生までで1,849人、中学校1、2年生が839人、中学校3年生が若干早目に卒業式があって金額が違うんですけれども、こちらが417人でございます。あと、それ以外にセンターの職員とか教員とか、あるいは保護者等が来た場合ということでいただいておりますけれども、一応生徒数については今申し上げたとおりでございます。

以上でございます。

○委員長（林 七巳） 議案の審査は途中でありますが、ここで11時15分まで休憩いたします。

休憩 午前11時 3分

再開 午前11時15分

○委員長（林 七巳） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き、議案の審査を行います。

ほかに質疑はありませんか。

高橋委員。

○委員（高橋秀典） 質問の機会をいただき、ありがとうございます。

私のほうからは、教育費関連で2点ほどお伺いしたいと思います。

まず、222ページですけれども、学校いきいきプランに関してでございます。

50万円から80万円ということで、各学校の校長先生の裁量で学校独自に使うことができるというふうに認識していますけれども、どのように活用されているか、もし最近の事例等ありましたらお伺いしたいということが1点でございます。

もう1点、264ページになります。先ほど大原幽学記念館のカヤぶき屋根のふき替え工事があるということでお伺いいたしました。カヤぶき屋根のふき替え工事というのは本当にめったにあることではないと思いますので、貴重な、それ自体が文化的なイベントであるかなというふうに思います。何か見学の機会等、そういったものはとれるものなのかどうか、また、そういったご予定があるのかどうか、その辺をお伺いしたいと思います。

○委員長（林 七巳） 高橋委員の質疑に対し、答弁を求めます。

学校教育課長。

○学校教育課長（菅谷充雅） それでは、お答えの前に、先ほどのご質問に対して数値が入りましたので申し上げます。

まず、現年度の収納率でございますけれども、1月末現在で99.31%でございます。あと、過年度につきましては、2月10日現在で26.43%ということで、ちょっと数値のほうが現年度よりだいぶ低くなってございます。

あと、先ほどの数でございましたけれども、先ほどの数は第一センターのみでございまして、第二センターが、小学校1年生から6年生までが1,636人、中学校が1年から2年までが393人、3年が209人ということで、数のほう、先ほどは第一のみでしたので第二センターにつきましても報告させていただきます。

続きまして、ただいまご質問ございましたいきいきプランの内容でございますが、今、実は25年度の内容についてはこちらのほうで全部取りまとめているところでございまして、だいぶ出てきているんですけれども、まだ最終的にはまとまっていないんですけれども、今ご指摘がありましたように、このいきいきプランにつきましては、各学校長の裁量で、自分の学校の教育目標を具現化するために、さまざまな教育活動に使わせていただいております。

今来ている中で見ますと、やはり芸術鑑賞とか落語とか音楽鑑賞とか、陶芸教室とか文化芸術鑑賞教室とか、いわゆるどっちかという芸術面での鑑賞、学校では知・徳・体と申し

上げますけれども、徳の部分、心の部分でしょうか、こういった部分の心を豊かにするという
ことで取り組んでいる学校が大体どこも多く来ております。

あと、それ以外には、例えば、縄跳びの有名なダブルタッチというんでしょうか、そうい
ったものの世界チャンピオンに来てもらって、子どもたちの縄跳びの興味を高めたりとか、
あるいは科学ショー、有名な米村でんじろうさんという方を呼んでサイエンスショーをやっ
て、これは2校ほどやっております。

あと、学校によっては、いっこく堂を呼びまして講演会をやったりとか、学校独自でやっ
たりとか、あるいは地引き網の体験をやったりとか、あるいは健康福祉教育講演会、健康福
祉とか命の教育講演会とか、あるいは豊かな心と健康教育とか、そういった形、いわゆるそ
ういった授業を通して子どもたちにそういったような力を高めていく。

あと、若干それ以外ですか、例えば使っている部分があるんですけども、ほとんどはそ
ういった授業でやっているというところがございます。今全部集約しているところござい
ます。

以上でございます。

○委員長（林 七巳） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐久間 隆） 大原幽学のカヤぶき屋根のふき替え工事の件でございます。

大変珍しい工事になると思いますんで、工事の時期としては冬になると思いますんで、竹
とかそういう材料、みんな水分が上がり切ったときに切るということで、もちが違うそう
なので冬になると思いますんで、その期間、いろいろ広報等で周知を図って、公園内の一部の
敷地の中にありますんで、皆さんに見ていただければと思います。

以上でございます。

○委員長（林 七巳） 高橋委員。

○委員（高橋秀典） ありがとうございます。

まず、いきいきプランのほうですけれども、さまざまな取り組みが学校においてされてい
るということで、非常に学校の個性を出していくという一つの機会になっているかと思いま
すので、すばらしいなと思いました。また、できたら、そういった事業に取り組むことによ
って、例えば子どもたちにどういった変化が表れたとか、どんな効果があったとかという
ところまで、もしこの事業の有効性ということでもってお示しただけのようであれば、今後
それもお願したいなど、これは要望ですけれども、お願したいと思います。

また、カヤぶき屋根のほうですか、現在そういったほかの課と連携をとって、例えば商工

観光課あたりと連携をとって、それを一つの観光化するとか、そういった機会にするとかいうお考えはありませんか。

○委員長（林 七巳） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐久間 隆） 今ですね、農業関係では交流事業として大原幽学のほうを使っていたいております。観光関係にしても、今度連携してその辺の集客を図ってまいりたいと思っております。

○委員長（林 七巳） 高橋委員。

○委員（高橋秀典） 昔はあったことかもしれまけんけれども、私にとっては、カヤぶき屋根のふき替えというのは多分初めて見るような体験になるんですけれども。その記録をとっていくこと自体も、一つ貴重な財産に今後なっていくかと思っておりますので、よろしく願いいたしたいと思っております。

以上です。

○委員長（林 七巳） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 七巳） 特にないようですので、議案第1号の質疑を終わります。

続いて、議案第2号、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

保険年金課長。

○保険年金課長（加瀬喜久） それでは、議案第2号、平成26年度旭市国民健康保険事業特別会計予算について、補足説明を申し上げます。

本案は、本会議で補足説明を申し上げていることから、ここでは事業勘定の短期人間ドックについて補足説明を申し上げます。

予算書の328ページをお願いいたします。

説明欄3の短期人間ドック事業についてご説明いたします。

予算額は4,111万3,000円を計上いたしました。前年度と比べますと852万1,000円、26.1%の増となっております。これは、人間ドックを希望する方が増えておりまして、25年度も700件ほどの申し込みがあることから、受検者数を前年度予算より200名増やし800名と見込むものであります。なお、現在受け入れている医療機関は、市内の中央病院と飯倉医院ですが、新たに市外の島田総合病院、東庄病院、匝瑳市民病院に委託しまして対応するものであります。

また、助成金額であります。限度額を現行の4万円から3万円に規則を改正いたします。

これは、近隣の国保及び他の社会保険等の助成の状況を考慮したもので、これにより1泊2日の方の自己負担額が増えることとなります。

なお、後期高齢者医療における短期人間ドック事業も同様に扱うこととなります。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（林 七巳） 担当課の説明は終わりました。

議案第2号について、質疑がありましたらお願いいたします。

島田委員。

○委員（島田和雄） 311ページになりますけれども、来年度26年度の国民健康保険税について、値上げというようなことの予算ですけれども、平均でどのくらいの負担増になるのか、1件当たりですね。それと、この値上げ案ですけれども、近隣の市と比較いたしましてどのようなものかお伺いします。

もう1点で、337ページになりますけれども、これは施設勘定のほうですね、施設勘定の一番下の繰入金なんですけれども、740万円の繰入金につきましては、これまでも同様の繰入金、ルール分というやつですか、の繰り入れだったと思います。次のページですけれども、基金繰入金というのがありますよね。財政調整基金からの繰入金ですけれども、これは最近では初めて財政調整基金のほうからの繰り入れになったと思いますけれども、その辺についての説明をお願いしたいと思います。

それと、これにかかわる財調の残金ですか、どのくらいあるのか、その辺もお願いします。

○委員長（林 七巳） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

税務課長。

○税務課長（佐藤一則） それでは、25年度と26年度の当初予算で比較いたします。1件当たりの調定額でございますけれども、昨年25年度当初予算におきましては18万2,700円の1件当たりの調定額でありました。26年度の予算を組んでありますのが1件当たり21万5,400円ということで、1件当たりが上がっております。これを1人当たり直しますと、25年度当初予算が9万1,100円、26年度当初予算が10万5,700円でございます。

今回の近隣の税率等の状況につきましてでありますけれども、まず限度額におきましては、近隣、銚子市、匝瑳市、香取市とも77万円ということで、法律どおりの限度額になっております。旭市の場合は68万円でしたので、こちらを77万円にそろえるということになります。

それで、国保の場合に内容が3つに分かれております。まず医療分、これは基本的な医療

分でございます。それから後期高齢者への支援金分、それから介護分と、この3つが合わさった合算の国保税となります。

それで、初めに医療分でございますけれども、こちらにつきましては、旭市が改定によりまして所得割6.6%になります。銚子市でございますが、これが6.8%でございます。それから匝瑳市が6.5%です。香取市が旭市と同じ6.6%となります。

さらに、この医療分が4つに分かれておりますので、あと資産割、均等割、平等割というのがあります。資産割につきましては、旭市は改定によりまして30%から20%と減額になります。銚子市につきましても資産割は20%です。匝瑳市25%、香取市25%です。それから、医療分の均等割でございますが、旭市の改定が1人2万1,000円です。銚子市2万4,000円、匝瑳市2万円、香取市2万円です。それから、平等割、世帯割なんです。旭市の改定が1件2万6,000円の数字になります。銚子市2万9,000円、匝瑳市2万5,000円、香取市2万4,000円でございます。

あと、今言いました支援金のほう、所得割について述べます。今回の改定によりまして、支援金分の所得割が2.3%になります。銚子市が2.2%、匝瑳市が2.5%、香取市が2.3%であります。

介護分の所得割につきましては、旭市が1.7%、銚子市が1.8%、匝瑳市が1.3%、香取市が1.9%ということで、総体的に見ますと近隣大体足並みがそろったかなというような状況でありまして、旭市としましては、先ほど言いましたように限度額が68万円ということで一番低かったものが、77万円という金額になるというところが大きな違いでございます。

以上でございます。

○委員長（林 七巳） 保険年金課長。

○保険年金課長（加瀬喜久） それでは、予算書の337ページの繰入金ですが、710万円と30万円ですが、これは710万円と30万円は例年どおりなんです。710万円は交付税算定分の財政課からの繰り入れです。それから、事業勘定繰入金のほうは国保会計から30万円、先ほどのほうへ繰り入れるものです。

それから、基金のほうの繰り入れですが、これは収入不足の補填として繰り入れるものです。本会議でもご説明したんですが、平成24年度の診療日数の減に伴う患者離れ、それによりまして患者数の減が見込まれ、また子宮頸がんワクチン等のワクチン接種を控えている関係で収入不足が生じるということで、基金からの繰り入れを行うということです。

それから、財政調整基金の保有状況なんです。25年度末では8,336万6,000円、それから

25年度繰り入れが568万1,000円ですので、残金としては7,768万5,000円を見込んでおります。
以上です。

○委員長（林 七巳） 島田委員。

○委員（島田和雄） 国民健康保険税のほうですけれども、この改定によりまして近隣と足並みをほぼそろえたというようなお話でありました。そういった中で一つ心配な点といたしますか、徴収率なんですけれども、昨年と比較しますと強気の徴収率の見込みということなんですけれども、これだけ値上げした中で徴収率をさらに上げるというようなことが問題がなかったのかどうか、その辺についてお伺いします。

○委員長（林 七巳） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。
税務課長。

○税務課長（佐藤一則） 徴収率につきましては、何度かお話ししておりますけれども、24年度決算と比べまして、今現在でございますけれども、25年度の見込みとしましては今現在上回っております、現年も滞納繰越分も上回っております。そういった中で、当然調定額、1年間で3億円ほど上がれば徴収に影響は若干出るとは思いますけれども、今進めております徴収対策を継続して行うということで、それから決算見込みも、前回から比べますと上がっております。それから、何回も言いますが、差し押さえ件数、財産調査等しっかりやって、この当初予算で盛りました徴収率をクリアするというところに全力を費やしていきたいと考えております。

以上です。

○委員長（林 七巳） ほかに質疑はありませんか。

佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） どうも、大変ご苦労さまです。

今回、値上げの条例は、総務常任委員会のほうで審議されるようで、ただ、どちらにしろ関連があるものですから、ちょっと発言させていただければと思います。

この値上げ議案、3年前、3.11、ここで審議している最中にまきに行っていたんですね。そういった意味で、タイミングもあるからということで、当時は21号議案、取り下げいただきました。3年間遅らせたわけですから、今回は近隣市町と足並みをそろえてというお話で、私はやむを得ないのかなと、そう思っております。ただ、非常に複雑ですね、この内容ね。本当に私分からなくて、もっと素人に分かりやすく。

例えば、私は国保じゃないので国保がよく分からないんですよ、正直な話。健康保険ある

いは共済保険あります。ほかにもあるみたいですけども、保険がですね。そういったもの、特に共済の方はお役所の方は分かると思うんですけども、保険の掛け金として、今回いろいろ資産割とか分けて、平均15%くらいになるんでしょうけれども、その値上がったやつが同じ所得層で見て、社保、共済より高いのかなと、その辺を分かりやすくお願いできればと思うんですね。まず第1点ね。

それと関連があるんですけども、予算書の中で、最初から現年で10数%、要するに取れないという予算ですよ。取れないという言い方は悪いけれども、徴収できないという予算。過年度に関しては85%取れないと見込んでいるわけでしょう。納められない人がいるわけですよ、きっとね。これが本当に、市の段階でないのかもしれないですけども、国民健康保険としてこういう徴税の仕方がいいのかどうかという、私は本当に疑問なんですね。その辺のところ。だから、ちょっと高いんじゃないのかなと、そんな気がするんで、その辺を分かりやすくお願いできればと思うんですよ。

それともう1点、国からの国庫支出金等が10数%か20%くらい、前年度から見て下がって来ますよね。この辺の見積もりはかなり難しいとおっしゃっていたんですけども、この辺の見通しも併せてお願いできればと思います。よろしく申し上げます。

○委員長（林 七巳） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

税務課長。

○税務課長（佐藤一則） 国保と社会保険とか共済組合、いろいろありますけれども、共済組合のデータをちょっとつかんでおりますのでお知らせいたします。

ご存じのように、半分は事業者が負担、半分が個人ということで負担のほうがなりますけれども、個人の負担の数字で述べます。例えば、給与の額が年間180万円の収入の方でありましたら、掛け金、共済組合が、個人が払う分ですけども、10万8,981円ということがあります。さらに事業主が同じ額を負担するということですので、倍になります。国保世帯で見ますと、12万4,900円ということで負担があります。それから、390万円ほどの給与収入の方で比べますと、共済組合の個人の負担が23万6,126円でございます。国保の場合は26万2,900円ということで、ここで国保のほうがやはり高くなっております。データの的にはそういうあれでございます。

それから、滞納繰越の徴収率14%と、低いんじゃないかというようなことでございますけれども、こちらも県内の平均等いろいろ毎年出ますけれども、24年度の決算で見ますと、県内平均の滞納繰越の率が16.7%でございます。これを、例えば予算を組むときに徴収率を

80%とか90%というような数字で組むことはできるとは思いますが、現状こういう数値でございますので、当然大きな歳入を組んでしまうということで、実際の数字とかけ離れてしまっていますので、滞納繰越分につきましては、今までの流れと徴収率を見て計上しておりますので、そういった中で計上しておりますので、数字的にはちょっと徴収率は低いんですけども、こういう数値になってしまいます。

実際に所得が低い方について、大変じゃないかということもあります。ですから、あと未済額等に影響するんですけども、その未済額につきましても、現状、24年度決算で約12億円ありますけれども、先ほど言いましたように、今年度徴収率等頑張っておりますので、その12億円が今年度は9,000万円ほど減ります。それ以上なかなか増やすというのが難しい中で滞納繰越の徴収率を組んでおりますので、よろしく願いいたします。

○委員長（林 七巳） 保険年金課長。

○保険年金課長（加瀬喜久） 国の支出金とか補助金等なんですが、いろいろ複雑で私も分かりにくいんですが、簡単に言いますと、補助金や負担金や国の交付金については、当初予算では概算で見込んで予算を立てています。それで、その年の決算や実績等によりまして過年度分を翌年度に精算等いたしますので、どうしても前年度と比べると数億円下がるとか上がるとかいう現象になってしまいます。

以上です。

○委員長（林 七巳） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） 3年前、徴収方法を9回にするという話だったんですけども、それは1か月市民税と重なるから駄目だと、私はかなり強く反対して、今回は8回になっているようですから、やむを得ないのかなと思っているんです。

今お伺いしました。やはりある程度所得というとおかしいんですが、200万円あるいは300万円くらいになるとやっぱり国保税は高いですね。しかも、共済・社保の場合は負担金として本人の掛け金以上、要するに共済の場合は市で出すわけですね。出しているんですよ。だから、そういった意味では、これから国保にもっともっと市のお金を入れて私はいいんだらうと思うんですね。そういった意味で、国保の人にだけ市税を使うのは不公正だというような話が一説でありますけれども、私から見ると、どちらかといえば共済の人を見るとね、国保にもっとお金を出してもいいんじゃないかと、そういうふうに感じています。

ただ、非常に複雑なんで、本当に難しい。ただ、そういう感じがあります。私自身は、3年前のこともありますので、やっぱりある程度市の財政のこともありますんでやむを得ない

のかなと思っていますけれども、これからもそういったところをもっともっと、私は勉強していきたいし、教えていただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

○委員長（林 七巳） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

（発言する人あり）

○委員長（林 七巳） いいですか。では、要望でお願いいたします。

ほかに質疑はありませんか。

高橋委員。

○委員（高橋秀典） 320ページになりますけれども、総務費の中の賦課徴収に係ることでございます。賦課徴収費合計額がおよそ2,000万円というところで、13節になりますが、委託料が950万円でおよそ1,000万円と、およそ50%は委託料という形になっているわけですが、この委託料の中で項目が電算機保守委託料という13番の説明のほうになっております。この内容について、50%を占める内容になっていますので、この保守委託の内容についてご説明いただければと思います。

○委員長（林 七巳） 高橋委員の質疑に対し、答弁を求めます。

税務課長。

○税務課長（佐藤一則） 電算業務の委託につきましては、企画政策課の情報管理班というところで一括契約等を行っております。予算的には、当然各課で電算を使っておりますので、各課で使っている内容によりまして金額については配分がございます。そんな中で、うちのほうは、来年度、この科目では950万4,000円ということでございますので、電算の保守委託料ということで電算全般にわたります委託料でございまして、金額の算出はそういう算出でございまして。

以上でございます。

○委員長（林 七巳） 高橋委員。

○委員（高橋秀典） 了解いたしました。

○委員長（林 七巳） いいですか。

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 七巳） 特にないようですので、議案第2号の質疑を終わります。

続いて、議案第3号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

保険年金課長。

○保険年金課長（加瀬喜久） それでは、議案第3号、平成26年度旭市後期高齢者医療特別会計予算についての補足説明を申し上げます。

本案も本会議で補足説明を申し上げているところですが、主なものにつきまして補足説明を申し上げます。

歳入の357ページをお開きください。

1款1項1目後期高齢者医療保険料は、千葉県後期高齢者医療広域連合における調定見込額に収納率を乗じて積算しております。収納率であります。1節の現年度分特別徴収保険料は、年金から天引きとなることから100%と見込んでおります。また、2節の現年度分普通徴収保険料は、口座振替や納付書によるものであり、過去の実績から97.93%と見込んでおります。また、3節の滞納繰越分普通徴収保険料は、49.96%と見込んでおります。

なお、保険料率であります。2年ごとの徴収見直しによる改定が行われるとともに、平成26年度からは県内均一の保険料となるものであります。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（林 七巳） 担当課の説明は終わりました。

議案第3号について、質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 七巳） 特にないようですので、議案第3号の質疑を終わります。

続いて、議案第4号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（石毛健一） 議案第4号、平成26年度旭市介護保険事業特別会計予算の議決について、補足説明を申し上げます。

議案第4号、介護保険事業特別会計予算につきましては、全員協議会及び本会議の補足説明にてご説明申し上げたところですが、一部追加してご説明申し上げます。

予算書の370ページをお開きください。

本年度予算額と前年度とを比較してございます。

歳出の2款保険給付費ですが、対前年度1億1,506万7,000円、2.6%の増を見込みました。要介護・要支援認定者が介護サービス等を受けた対価として支払うこの保険給付費が、歳出総額の97.2%を占めております。

介護認定及び介護サービスの利用状況ですが、平成26年1月末現在で、認定者数は2,646人、介護サービス利用者数ですが、これは25年12月の状況になりますけれども、利用者は全

体で2,248人でございます。そのうち、居宅サービス利用者が1,613人、施設サービス利用者が635人であります。

次に、予算書の392ページをお願いいたします。

5款3項1目説明欄3、配食サービス事業、13委託料1,296万円についてご説明申し上げます。

配食サービス事業につきましては、現在、社会福祉協議会に業務委託しており、市内5つの社会福祉法人が調理し、見守りを兼ねた配達を行っておりましたが、1日の調理数に限りがあり、昨年度あたりから利用者の要望に添えない状況になっておりましたので、事業内容の見直しによりまして、平成26年度から民間の宅配業者に委託を予定しております。年間の配食数は、月平均で130人の利用者に対しまして1万6,200食を見込みました。

なお、利用者の利用料金の変更はございません。

以上で、議案第4号の補足説明を終わりにさせていただきます。よろしくをお願いいたします。

○委員長（林 七巳） 担当課の説明は終わりました。

議案第4号について、質疑がありましたらお願いいたします。

島田委員。

○委員（島田和雄） 先ほどの質問の延長なんですけれども、介護4、5と該当している人が旭市にいると思いますけれども、その中で自宅にいる方、何人くらいいるのかお伺いします。

○委員長（林 七巳） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（石毛健一） すみません、お待ちいただきたいと思います。

○委員長（林 七巳） ゆっくりでいいよ。

○高齢者福祉課長（石毛健一） 先ほどお知らせしました12月末現在の利用者でございますけれども、介護5の人が在宅で153人、介護4の人が193人でございます。

ちなみに、施設のほうは、介護5の方が176人、4の方が237人というような状況でございます。

以上でございます。

○委員長（林 七巳） ほかに質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 七巳） 特にないようですので、議案第4号の質疑を終わります。

議案の審査は途中ではありますが、昼食のため午後1時00分まで休憩いたします。

休憩 午前11時54分

再開 午後1時0分

○委員長（林 七巳） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き議案の審査を行います。

続いて、議案第8号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
病院経理課長。

○病院経理課長（土師 学） 議案第8号、平成26年度旭市病院事業会計予算の議決について、補足説明を申し上げます。

予算書の7ページをお開きください。

平成26年度旭市病院事業会計予算実施計画でございます。

収益的収入のうち、1款1項1目入院収益、2目外来収益は、患者数及び単価を25年度の実績を基にし、さらに診療報酬改定で見込まれる消費税増税分を加え算出いたしました。

次に、2項3目負担金交付金は、市の一般会計から繰り出しされる国からの地方交付税であり、交付税算定額を見込んで計上いたしました。

2項4目長期前受金戻入は、会計制度変更により新設された科目で、補助金により取得した資産の減価償却の見合い分を計上いたしました。

次に、予算書の9ページをお開きください。

収益的支出のうち、1款1項1目給与費は、病院職員に係る給与費で、医師手当の拡充や技師、看護師確保に伴う増加、法定福利費の総合事務組合は今年度も減額を見込んで計上いたしました。

2目材料費のうち、薬品費並びに診療材料費は、入院・外来収益を勘案し、さらに近年増加傾向となっている化学療法の増加分、高額手術件数の増加による増額分を見込み計上いたしました。

3目経費のうち、引当金繰入は、会計制度変更に伴い今までの不納欠損に替わり計上いたしました。

2項4目長期前払消費税償却は、今までの控除対象外消費税償却が会計制度変更に伴い名

称変更となっております。

以上により、当期利益金を2億2,353万1,000円、税抜で1億7,694万2,000円と見込んでおります。

次に、予算書の12ページをお開きください。

資本的収入のうち、1款1項1目企業債は、医療機器購入に係る企業債借入2億円を予定いたしました。

2項1目補助金は、医療機器購入に係る国民健康保険調整交付金を計上いたしました。

資本的支出のうち、1款1項1目工事費は、25年度からの継続事業であります医師宿舍建設工事等を計上し、2目資産購入費は、医療機器・ソフト開発費等諸経費を計上いたしました。

2項1目企業債償還金は、元金償還として13億8,804万8,000円を計上いたしました。

以上で、議案第8号、病院事業所管の補足説明を終わりにさせていただきます。よろしくお願いたします。

○委員長（林 七巳） 担当課の説明は終わりました。

議案第8号について、質疑がありましたらお願いたします。

伊藤委員。

○委員（伊藤房代） 1点質問させていただきます。

議案第8号、26年度病院事業会計予算についてお伺いたします。

今、病院では新年度から診療報酬の改定や消費税の増税などが予定されていますが、何といても病院の基本は医師であると思います。医師数について、一昨年的大幅減少からさまざまな取り組みを行った結果、現在は小康状態を保っていると聞いておりますが、来年度4月1日現在の医師数はどのような見込みなのか教えていただきたいと思います。お伺いたします。

○委員長（林 七巳） 伊藤委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院総務人事課長。

○病院総務人事課長（河北 隆） 平成26年4月1日現在の医師予定数、まだ確定ではございませんが、241名の見込みでございます。したがって、これは平成25年4月1日の実績240名と比べて1名の増加でございます。

ちなみに、平成23年4月1日、258名、平成24年4月1日はマイナス14名の244名、平成25年4月1日が240名でございましたので、平成26年度は、3年ぶりにわずか1名ではござい

ますが増員に転じることができる見込みになっております。引き続き各種の取り組みを積極的に進め、医師の増員を図ってまいりたいと考えております。よろしく願いいたします。

○委員長（林 七巳） よろしいですか。

（発言する人あり）

○委員長（林 七巳） ほかに質疑ありませんか。

景山岩三郎委員。

○委員（景山岩三郎） それでは、2点ほど質問させていただきます。

1点目として、予算書の5ページ、企業債の医療機器購入事業で2億円の企業債を発行するとのことですが、400億円近くの予算を計上している中で、何か特別な有利な財源で2億円の起債を発行する具体的な理由をお願いいたします。

2点目として、予算書の35ページ、期末勤勉手当の支給率が年間3.95か月と記載されておりますが、聞くところによると、中央病院は年度末に期末手当を支給しているわけですが、確認の意味で、そのようなことが行われているかどうかお聞きしたいと思います。また、支給されているならどのような根拠で、平成20年度から支給状況をお尋ねいたします。対象者、支給率、総額の支給額等について回答をお願いいたします。よろしくどうぞ。

○委員長（林 七巳） 景山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

○病院経理課長（土師 学） それでは、私のほうから、最初のご質問でございます5ページの企業債2億円についてでございます。

何か特別な有利な財源でということのご質問でございますが、こちらにつきましては、財務省の医療機器整備事業資金を想定してございます。有利なといえますか、ちょっとまだ、これは26年度の話でありますので、レート等がどうなるかということはちょっとあれですが、昨年の25年3月に借り入れいたしました企業債につきましては、同じ医療機器というところで、期間が医療機器ですと5年という形になります。ですので、昨年度の分につきましては0.1%で金利は借りてございます。借り入れに関しましてはいろいろさまざまな医療機器の条件がありまして、減価償却期間が6年ですとか、人件費部分が含まれないようにとか、いろんな条件がありますが、その中でその条件に見合うものにつきましては、こちらの企業債の中で上限を2億円という形で予定しているところでございます。

以上です。

○委員長（林 七巳） 病院総務人事課長。

○病院総務人事課長（河北 隆） では、第2点について回答申し上げます。

まず、業務手当、支給しております。その支給根拠について申し上げます。支給根拠は、旭市病院事業企業職員の給与に関する規程第14条です。別表第11にございます業務手当、病院事業に従事する職員を対象に年額として、経営状況によりその都度管理者が別に定める金額を支給するという根拠規程がございます。

これに基づきまして、病院のほうで取扱内規を定めております。その内容を少し紹介いたします。

業務手当は、3月1日、これを基準日といいますが、に在職する職員、これは正規職員、常勤職員でございますけれども、別に定める基準日以前1年間のそのものの勤務成績と勤務期間に応じて基準日の属する月の事業管理者が定める日、これは通例3月の最終実働日でございますが、に支給する。その支給基準額は、勤勉手当基礎額に医師等にあつては100分の120、その他の医師以外の職員にあつては100分の100を基準額として定める。ただし、事業管理者は病院事業の経営状況によって、この規程にかかわらず業務手当の額を増減することができる、こういう取扱内規に従って支給してございます。

その支給実績について報告申し上げます。平成20年度からの支給実績についてであります。少し数字が細かくなりますが、ご了承をお願いします。

まず、平成20年度、医師については1.2か月分、医師以外の正規職員について1.0か月分ということで、金額としては合計4億8,086万7,000円です。支給対象者は1,683名おりましたので、1人当たりが28万5,720円という実績です。

平成21年度も同じく医師1.2か月、医師以外1.0か月、支給総額4億7,559万9,000円、支給対象者1,704名、1人当たり27万9,107円。

平成22年度は、支給率が医師1.5か月、医師以外は1.3か月、総支給額6億5,566万7,000円、支給対象者1,885名、1人当たり34万7,833円を支給しております。

平成23年度、医師1.2か月、医師以外1か月、支給総額5億172万9,000円、支給対象者1,882名、1人当たり26万6,593円を支給してございます。

平成24年度、医師1.2か月、医師以外1か月、総支給額5億1,135万円、対象者1,908名、1人当たり26万8,003円でございます。

平成25年度、これは見込み予定額でございますが、総額5億5,000万円、対象者1,950名、1人当たり28万2,051円を予定してございます。

以上です。

○委員長（林 七巳） 景山委員。

○委員（景山岩三郎） 大変申し訳ありませんけれども、もう1回。

医師マンションに対しては全額自己資金で行うという話でありました。このような巨額の企業債を発行することが有利な財源であっても、マンション建設の場合はそのような有利な財源が活用できなかったのかどうかお聞きいたします。

○委員長（林 七巳） 景山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院事務部長。

○病院事務部長（菅谷敏之史） 私のほうから再質問にお答えしたいと思います。

医師マンションの建設につきましてはいろいろな経緯がございまして、有利な資金という視点だけではなく、建設に係ります議会での質疑等を総合的に踏まえまして病院内部で検討しました結果、全額自己資金で行うということを決定いたしまして、予算に措置させていただきまして、現在事業を進めているところでございます。

以上です。

○委員長（林 七巳） 景山委員。

○委員（景山岩三郎） では、2点目のほうの質問をちょっと。どういう器械を買うかどうか、後で部長、お答えを。今答えられますか。器械の機種、医療機器。いいですか。はい、どうぞ。

○委員長（林 七巳） 何だ、俺が言うんだよ。

景山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

○病院経理課長（土師 学） それでは、医療機器というご質問でございました。26年度は、25年度のようにIMRTのような、特に大きな高額な医療器械のほうは予定してございません。その中で幾つかお話し差し上げますと、超音波の診断装置ですとかモニタリングシステムですとか、そういったところを予定しておりまして、25年度のようなちょっと大きいもの、目玉になるような大きいものは特にございません。

以上です。

○委員長（林 七巳） 景山委員。

○委員（景山岩三郎） 大変申し訳ありません、委員長、ごめんなさい。

2点目の質問のほうをちょっとお聞きします。

業務手当として支給していることですが、経営状況によりその都度管理者が別に定めると

のことですが、中央病院は黒字経営を行っています。しかし、一般会計からの繰出金が年間20億円を超える額の企業会計が、果たして経営状態がいいものかどうかお尋ねいたします。

また、一般会計からの繰出金は普通交付税等に算入されている額をそのまま病院へ繰り出していると聞いていますが、普通交付税算入分はその事業に繰り出さなくても、普通交付税が減額されることはないと言われてしています。繰出金を財源に支給しているとしたら、算定に定められている条件に当てはまらないと思いますが、どうでしょうか。お答えをお願いします。

○委員長（林 七巳） 景山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院事務部長。

○病院事務部長（菅谷敏之史） それでは、私のほうからお答えしたいと思います。

確かに病院の経営状況の見方については、いろいろな視点、見方があるというふうに私も思っております。議員のほうから、一般会計の繰出金が年間20億円以上あるではないかというご指摘がありましたが、確かに私ども病院として、一般会計からの繰り出しを受けております。ただ、ご理解いただきたい点が一つあると思います。

一般会計の繰り出し方法については、それぞれの病院を開設している自治体によりましていろいろな計算手法があります。私どもの旭中央病院は、国からの交付税に算定される額をそのまま病院に繰り出すという方式をとっております。もう一つ、一般的に行われている方法なんです。自治体病院は、例えば救急とかいろいろな不採算医療を担っているところが多いものですので、なかなかこの額だけでは経営が成り立たないということで、国のほうで開設者のほうに、この病院の規模でこういう内容をやっていけば、この程度の繰出金は適正な範囲だということで、一定の繰出基準というものを設けております。それに基づく繰出額のほうが、実は交付税の額よりもはるかに大きい額でございまして、他の自治体病院では交付税算定額ではなくて国の定めた大きいほうの繰出額をもらっても、なおかつ決算上黒にならないというところが大多数でございます。

では、旭市の場合どのぐらいの国の基準でいうと額になるかということ、それが実は40億円を超える額になっておりまして、とても国から交付税で20億円来る分にあと20億円足して基準額どおり病院に出すというのは、現実的には不可能な数字だと私ども思っております。もらうのが当たり前という考え方ではなくて、やはり企業経営としてやっているわけですので、少しでも努力していくという姿勢は私どもとしても持っておりますが、やはりそういった民間では賄い得ない不採算医療を担っているということで、国の算定基準でも、私どもの病院

の規模と内容であれば国としても40億円程度の繰り出しは認められる額だという基準額が出ておりますので、そういった中で、私どもとしてはその半額の20億円で黒字を出しているということで、一定の評価は、ほかの自治体病院と比較した場合は、いただけるのではないかとこのように考えております。

また、事業管理者としても、そういった環境の中で日々業務に当たっている職員に対して、先ほど言いました基準に基づいて、適切と判断して支給しているものというふうに私どもは理解しております。

以上です。

○委員長（林 七巳） ほかに質疑はありませんか。

高橋委員。

○委員（高橋秀典） よろしく願いいたします。

事業別収支ということですので、23ページでよろしいでしょうか。下の段ですね、セグメントのところですか。こちらで、先ほどお伺いしましたように総額としては約22億円の黒字ということで、特にちょっとお伺いしたいのは訪問看護ステーションのことです。

高齢化がさらに進んでいって、また対象者が増えてくる中で、在宅の比率を増やしていくというのは大きな流れになってくるのかなと思うんですけども、この訪問看護ステーションの中長期的な事業としての見通しということは、今お伺いしたいところなんですけれども、いかがでしょうか。

○委員長（林 七巳） 高橋委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

○病院経理課長（土師 学） 訪問看護ステーション事業の今後のというところでございますが、確かにこちらのほう、在宅の、特に当院の訪問看護ステーションにつきましては、在宅の神経精神科の患者さんを支援する目的で開設のほうをしてございます。それで、当然こういった形で、当院は精神科の入院患者さんも今後在宅のほうに、できるだけ切り替えが可能な方は在宅のほうに移行させていただくという中で、今後ともこの訪問看護ステーションにつきましては、ある程度の規模を持って運営していくものだというふうに考えてございます。

以上です。

○委員長（林 七巳） 高橋委員。

○委員（高橋秀典） そうすると、今後ですけれども、訪問看護ステーションの事業規模というのは拡大していくであろうということでしょうか。

○委員長（林 七巳） 高橋委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

○病院経理課長（土師 学） また、こちらは拡大していくということではなく、需要と供給に合わせてという形で今後検討していく形になろうかと思えます。

○委員長（林 七巳） ほかに質疑はありませんか。

島田和雄委員。

○委員（島田和雄） 40ページですね。3節の法定福利費、21億円くらいの予算が計上されておりますけれども、この中の総合事務組合負担金についてお伺いします。

これは退職金の積み立てのことだと思いますけれども、25年度におきましては、各市で60億円を超えた部分については免除だというようなことで、市全体です、そういったようなことで、25年度につきましては旭市は負担をしなくて済んだわけでありまして、26年度の予算の中で、細かい数字がこれの中に出ておりませんが、中央病院としましてはどの程度の予算を組まれているのかお伺いします。

それと、42ページの15番の委託費ですけれども業務委託料、どのような業務委託をされているのか、分かればお伺いします。

○委員長（林 七巳） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院総務人事課長。

○病院総務人事課長（河北 隆） では、退職金事務組合負担金の関係を申し上げます。

平成25年度は、おっしゃるとおり全額減免ということになりました。平成26年度も、現在のルールで2億1,500万円の負担を見込んでおります。通年ですと11億7,000万円の負担額が病院に課されてくるんですが、減免措置を前提として平成26年度は2億1,500万円の見込みをしてございます。ただし、退職金事務組合のほうで新たに減免制度をさらに拡充するということが決議されるというふう聞いております。新たな決議がされれば、負担金額については累計収支が5年間で20億円以内になるよう減額を行うというルールが新たに適用されることとなります。これですと、平成26年度も恐らく全額免除ということになるだろうと予測しております。

以上です。

○委員長（林 七巳） 病院事務部長。

○病院事務部長（菅谷敏之史） 一部事務組合のほうについて、もう少し補足をさせて説明させていただきます。

市と子ども病院も含めて総合事務組合に加入しておりますけれども、今総務人事課長から言いましたように、さらなる改善案が、実は2月に議決をされておまして、その内容をご説明したいと思います。

改正内容は、2点ありまして、まず負担金なんですけれども、これまでは一律の負担金を取るという形だったんですが、それだとなかなか病院のように短い間で退職する方については、負担ともらう額が一致しないということで非常に不整合が出ていたんですが、今後は、まず負担していただく先の額を今後5年間にどのぐらいの退職金需要があるかを想定して、額を算定して、その額に基づいて負担金を取るようにしましょうということで、取る額を適正な額で取りましょうという改正点の一つです。

それと、もう一つの改正点が、今現在、25年度末ですと、子ども病院を含む旭市は、69億円程度の累積が生じるという結果になるんですが、この額について、今後5年間で市にあっては20億円以内まで減らしていこうということが、併せて制度改正がされております。ですので、先ほど言いました負担金の額から20億円になるように5年間にわたって毎年負担金を控除していこうという、2点目の改正も既に決定されております。ただ、その制度の骨組みは決まったんですが、今後事務組合のほうで、具体的な、では、旭市の額は幾らになるんだと、減免の額は幾らになるんだということについては、今後規則の中で定めていくということになりまして、今現在はまだ額が明らかになっておりません。ですので、今回の予算につきましては、旧制度の基に算定をさせていただいておりますので、新年度に入りまして額が明らかになった段階で、市長部局とも相談した上で、補正等の適切な対応をとっていきたいと思っております。

以上です。

○委員長（林 七巳） 病院経理課長。

○病院経理課長（土師 学） それでは、私のほうから、先ほどの2点目の委託費、どのような内容だというご質問だろうと思います。

こちらにつきましては、さまざま数がたくさんあるものですから、代表的なところだけ話させていただきますと、業務委託料というところに関しましては、こちらは検体検査の委託ですとか、総合受付、今外部委託でやっております。そういったところが一番大きいところで目に見えるところかと思っております。あと、施設設備等の保守料につきましては、病院のほうで入れてございます電子カルテシステム、こちらの保守整備のところの契約ですね。そちらが大きいところになるろうかと思っております。あと、医療機器の保守料、こちらは医療器械

のそのとおりという形になるんですけれども、特に増えているものにつきましては、本館完成後に器械を若干入れ替えてございますので、その辺につきましては従前よりも増えてございます。

以上です。

○委員長（林 七巳） 島田委員。

○委員（島田和雄） 委託料につきましては、項目がいっぱいあるということだろうと思いますので、できれば一覧表ですか、出していただければありがたいと思いますけれども。一覧表と委託金額ですか。

それと、退職金の積み立てのほうなんですけれども、今後5年間で20億円まで減らすというようなことでありましたが、そうしますと、旭市の負担については20億円になるまで積み立てを行わないのか、それとも徐々にこの20億円に近づけていくのかということなんですけれども、その辺はどのような扱い方を考えているのか。

それともう1点ですけれども、本年度の予算の中には、本来であれば11億円くらいを積むというか、見るというような中で2億1,000万円を予算的には計上されたということですが、そうしますと本来であればもう9億円、この法定福利費は30億円くらいになるというような考え方でいいのかどうか、2点お伺いします。

○委員長（林 七巳） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院事務部長。

○病院事務部長（菅谷敏之史） まず、来年度以降の額なんですけど、実はまだ決議された部分があるんですけど、そういった方向の負担金とするところまでが実は条例事項でして、具体的な金額については規則に委ねるところになっておりますので、現在の時点では市長部局の負担金が幾ら、病院分が幾らになるということが確定しておりません。

ですので、それが確定しないものですので、その金額に対する減免額というか、軽減額が幾らになるかというの、規則を待って算定されないと今の時点では分からない形になっております。もうしばらくお時間をいただきたいと思います。

それと、もう1点の今年度の予算措置額は、確かに私どもとすれば、現制度で減免を受けられる9億6,000万円を減額して措置しておりますので、本来もし減免がない場合は、この部分をそこに上乗せしなくてはならない形になります。

以上です。

○委員長（林 七巳） ほかに何か質疑はありませんか。

議長。

○議長（高橋利彦） それでは、2点ほどお尋ねします。

まず、中央病院は市の一部署となっております。そういう中で、ここに予算出てきましたけど、予算については、市長部局と十分ヒアリングをした上で出てきていることと思っています。そういう中で、今、市長部局だけの、一般会計等含め、その分のヒアリングは何日ぐらいやっているのか。それと、今度は中央病院の予算のヒアリングは何日ぐらいやっているのか。

それから、ここにいろいろ、例えば9ページ、先ほど島田委員も質問して、例えば44億6,200万円ですか。一般経費でどんと出ているわけですね。これは誰も分からないんですよ。そういう中で、市長部局としては、この明細をどういうふうに思っているのか。

（発言する人あり）

○議長（高橋利彦） この一般経費の44億円ですか、これは市長部局からご答弁いただきたいと思います。当然、もともになる根拠ですか、これは市長部局が持っていると思いますので、市長部局からお答えいただきたいと思います。

それともう一つ、先ほど島田委員が委託料なんかの明細を質問しましたが、例えば、この経費であっても、また委託料であっても、今まで何も明細が出てないんですよ。一般会計等は全部予算書に載っているわけ、それから主要事業なんか載っている中で、なぜ中央病院は出さないのか。それでないと、我々はちょっと理解できないんですよ。ですから、その辺、細かな明細ですか、今後は出していただきたいと思いますが、その辺お尋ねします。

○委員長（林 七巳） 議長の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

○病院経理課長（土師 学） それでは、ただいまのご質問の中で経費の内訳というお話がございましたので、そちらのほうについて回答させていただきます。

予算書のほうの、41ページのほうをご覧くださいませでしょうか。内訳につきましては、この予算書のほうの巻末のほうで、内訳というところで、一応できる限りの形でお示しのほうはさせていただいているつもりでございます。

以上です。

○委員長（林 七巳） 高橋議長。

○議長（高橋利彦） そういう中で、中央病院の予算はかなり大きいわけです。そして、これだけの予算、当然のこととして、市長部局が認めたからこの議会へ出てきたわけですね。そ

ういう中で、市長部局の予算のヒアリングは現在何日くらいやっているのか。それから、中央病院の予算のヒアリングは何日くらいやっているのか。そういう中で、中央病院からは当然このもとの数字が出てくると思うんですね。それをどの程度まで市は病院から受け取っているのか。とりあえず、まずそれをお聞きします。

○委員長（林 七巳） 議長の質疑に答弁を求めます。

財政課長。

○財政課長（加瀬正彦） まず、予算編成ですけれども、全体の予算編成の説明会には当然病院にも出てきていただきます。これがまず1日かかります。それで、予算の主要事業の関係、これをまず前段で出していただく。この段階で主要事業の市長協議はおおむね1週間程度を予定した中で全体をやっていただく。その中に中央病院も入るということになります。

それと、一般事業の関係、今度いわゆる主要事業以外のもの、経常的な経費を含めた予算、この要求が出されます。財政課のヒアリングにつきましては、26年度の予算であれば12月6日から12月24日というような期間の中でヒアリング日程を組む。ここの中で、当然病院も入ってくるということになります。

その後で、病院につきましては、当然予算の原案は病院のほうで作成したものをうちのほうで受けるという形でありますので、財政課のヒアリングとしては、全体としてこういう見込みでこういう形で数字をまとめましたという、その資料をいただくような形になっていきます。

年が明けて、市長、副市長査定ということで、予算の説明の段階でお示ししたのが1月20日から1月24日、ここの中でやりたいということで、そこの中の1日が企業会計等に当たっているということになります。最終的なものは、そこの中で特に異論等がなければ最終的な数字をまとめていくということになります。

事業は、その段階で病院のほうでまとめた原案を財政課も一旦聞き、それから市長、副市長の査定といいますか、そこの中でヒアリングをしたその結果によって予算書としてまとめて議会のほうに提出する、そのようなスケジュールで進めております。

以上です。

○委員長（林 七巳） 高橋議長。

○議長（高橋利彦） 細々説明をいただいたわけですが、ですから、簡単に言いますと、市の予算のヒアリングは結局この予算のために何日使っているのか、病院は何日使っているのか。そういう中で、病院からは、この予算書で聞きますが、このもとなる数字が市のほうへ出

てきているのか、その検討をしているのかお尋ねします。

○委員長（林 七巳） 高橋議長の質疑に対し、答弁を求めます。

財政課長。

○財政課長（加瀬正彦） 当然一般会計のほうが、さまざまな事業に及ぶということでボリュームがあるわけでございます。そういう中で、一般会計のほうがどうしても多く時間はとられる。病院につきまして、その数字の根拠というところなんですけれども、どこまでというのは、その時点で、議長はどこまで求められているのかちょっと分からないんですけれども、積み上げた数字でないと、やはりうちのほうとしては判断のしようがないところがありまして、積み上げた数字をいただいているような形になります。

前段の主要事業のときにも、1日のうちの割り当ての時間、それから年明けの市長協議の段階でも、1日のうちの、丸一日使っていません、病院は、少なくとも1時間とか、そういうレベルの中で細かい説明をしていただくような形になっています。

以上です。

○委員長（林 七巳） 高橋議長。

○議長（高橋利彦） あのね、ヒアリングの中で市の部分の予算のヒアリングを何日やっているのか、中央病院の予算のヒアリングを何日やっているのか、それだけでいいですよ。そういう中で、ここに予算書に出ていますね。そのもとを市は中央病院からもらってあるのか、もらってないのか、それだけでいいです。

○委員長（林 七巳） 高橋議長の質疑に対し、答弁を求めます。

財政課長。

○財政課長（加瀬正彦） もとというのがちょっとよく分からないんですけれども、予算書として出す段階に当たっては、当然うちのほうの合議を経て出します。ですから、その予算書のもとにはうちのほうも目にする形になります。ただ、その積み上げた数字の、例えばこれが何人見込んで何人という、そういう積算の根拠はヒアリングの中でいただきます。ただ、そのものが予算書の体裁ではないということです。それぞれの、例えば来年度の主要事業がこういうものがあって、こういうものを見込んで、伸び率等を見込んでこういう予算を組みますというのが中央病院の考え方で来ているので。

一般会計の場合ですと、歳入歳出、事業も非常に細かく700事業ぐらいにたしか分かれていたと思うんで、その事業を全部聞いているわけです。ただ、病院は一つの事業で特出しして、特別会計という取り扱いをしていますので、その事業全体、あらゆる細かいところま

でうちのほうは聞いて、うちのほうが決定しているわけではない。あくまでも病院が原案を作ったものをうちのほうはそのヒアリングをして、特におかしいところがなければそれでそのまま原案としていくのかなということで、今まで流れで実施しているところであります。

○委員長（林 七巳） 高橋議長。

○議長（高橋利彦） そうしますと、この9ページにあります、例えば経費46億円、これが果たしてどうなっているかは、市は全然把握できないということですね。それから、例えば、先ほど島田委員が質問しました42ページですか、委託料24億円ほどありますが、この業務委託料13億円ありますね。こういうものの中身は全然市はもう関係なく、中央病院から出てきたものをそのままこの議会へ予算として出してきたということなんですか。もうほとんど、中央病院が組んだ予算に対しては市は関与しないと、こういうことでよろしいですか。

○委員長（林 七巳） 高橋議長の質疑に対し、答弁を求めます。

財政課長。

○財政課長（加瀬正彦） 9ページということであれば、これはそれぞれの費目ごとの積み上げた数字になっています。この費目がどういう形で積み上がっているか、そこまでは具体的に市の財政と協議はしていません。あくまでも、企業会計の中で事業管理者がいて、その事業管理者が積み上げて作った予算の原案、その原案を市のほうにいただいて、市はあくまでも議会に提出するということでもありますから、そのところは公営企業会計の全適という部分もありますから、その中で尊重すべきものは尊重すべきという形で、従来から来ているものだと思います。

この積み上げは、具体的にどれがどうということで、うちのほうからお答えすることはなかなか難しいかなと思っております。

○委員長（林 七巳） 高橋議長。

○議長（高橋利彦） では、今後ですけれども、例えば経費ですか、この内訳、それからまた委託費等、これらのものについては明細を逆に出していただきたいと思いますが、いかがですか。

○委員長（林 七巳） 病院事務部長。

○病院事務部長（菅谷敏之史） 具体的経費については分かるように出したいと思いますので、よろしくをお願いします。

○委員長（林 七巳） ほかに質疑はありませんか。

佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） どうも、大変ご苦労さまです。

この間、一般の人とちょっとお話ししてましたら、ココスの東側に今大和ハウス工業が貸し店舗を建ててますね。何かユニクロ系のお店が出るんだそうです。そんな話をしていました。ケーズデンキ、ヤマダ電機、ユニクロ、ニトリ、そして新たに来るであろう店舗。もし中央病院がない旭市だったら、多分来ないだろうと。そういった意味で、大型店舗が来るのはやっぱり旭中央病院があるからと、そういった話をしていたんですがね。この間、中央病院のすごい波及効果が旭市にずっと出てきているわけですね。そういった意味で、私は中央病院に健全に、どんどんどんどん伸びて行ってほしいなと思っています。

それで、今、島田和雄議員、高橋議員、ちょっと関連があるのかもしれないんですけども、特に何ページでしたっけ、法定福利費の話なんですけれども、多分退職金の積み立ての話だと思うんですね。1年前に、1年たつかな、私、議会でお伺いした時に109億円とおっしゃっていましたよね。それが今69億円だという話なのかもしれないんですけども、私、全くこの会計は素人で分からないんですけども、こういうことなのかなと。

多分、30年間とおっしゃっていましたけれども、30年間法定福利費、退職金積立金ということですとずっと出していて、それが30年たって気がついたら109億円行き過ぎていたと。そうしたら膨大なもうけですよ。だから、私、議会で質問した時にも思ったんですけども、本来なら特別利益として計上して、貸借対照表の資産に入れなきゃいけないんだと思うんです。それが入ってないから分からないんですね。全く素人考えで申し訳ないんですけども、貸借対照表の資産に入っていれば、入れておけば、修正申告でも何でもして入れておけば、今でもそうなんだと思いますけれども、それが必要なんだろうと思うんですけども、その辺どうですか。私、全く素人なんで分からないんですけども、そういう話なんだらうと思うんですけども。

○委員長（林 七巳） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

○病院経理課長（土師 学） 今、委員のご質問の趣旨、ちょっと間違っていたら申し訳ないんですけども、要するに、病院のほうで法定福利費として総合事務組合のほうに積み立てている額が109億円であるということ、それが資産のほうに本来計上すべきではないかというご質問でよろしいでしょうか。

（発言する人あり）

○病院経理課長（土師 学） そちらにつきましては、経費といいますか、総合事務組合のほ

うで組合になっておりまして、そちらのほうに積み立てる形で積んでございます。それでまた、職員が退職した時にその中で一定の規定に基づいて退職金として受け取る額でございますので、その分を資産として積むというのはちょっとおかしいのかなという、説明になっているかどうかあれなんですけれども、要するに、退職した時に事務組合のほうから退職金として受け取るわけで、その時に病院のほうから資金が、変な話ですけれども、積んだ中から出て病院が支払うという形ではございませんので、資産計上という形にはならないというふうに考えます。

以上です。

○委員長（林 七巳） 病院事務部長。

○病院事務部長（菅谷敏之史） 会計上のことは今お答えしたとおりなんですけど、109億円と69億円の数字のこともおっしゃっていらっしゃいましたので、補足させていただきたいと思います。

109億円の数字というのは、実は24年度末に、あくまで総合事務組合に加入するのは病院と市長部局を含めた市が一本で加入します。ですので、市の一本の中で病院部分と市長部局分を分けた時にどうなるかという議論なんです。実は、病院部分は掛け過ぎているんですが、市長部局部分は、逆にいうと実は同じ旭市の中でももらい過ぎている形になりますので、実は69億円というのは市全体として過払い分が69億円であって、109億円というのは24年度末の病院として払い過ぎている分が109億円なんです。

ですので、市として払い過ぎている分は109億円ではございません。あくまで病院部分と市長部局分を含めた額での累計になりますので、ご了解をいただきたいと思います。

○委員長（林 七巳） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） 病院と市、そして組合という3つのあれがあるわけなんですけど、とりあえず病院とすれば109億円行き過ぎているという話ですよ。一応資産ですよ。だから、その辺はこの予算書でどこを見れば分かるんですか。その辺出ていますか。

○委員長（林 七巳） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

○病院経理課長（土師 学） 事務組合のほうに幾ら積んでいるかというのは、この予算書の中では分かりません。要するに、事務組合のほうに照会をかけてという形、市のほうを通じて組合のほうでも照会をかけたという形で、ご質問あったときにはその時その時の数字をつかむようにしてございます。

以上です。

○委員長（林 七巳） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） どちらにしろありがたい話なんで、穴をあけているわけではないんで、100億円というのはすごい大金なんで、議会でも申し上げましたけれども、これを市当局と、あるいは組合も交えてお話ししてこれから精算していくんでしょけれども。ただ、私心配しているのは、今独法化の話がありますけれども、このときにはこの資産関係はきちっとしておかなければいけないんじゃないのかなと、それを心配しているんですが、どうですか。

○委員長（林 七巳） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院経理課長。

○病院経理課長（土師 学） 当然、独法化したときにその事務組合がどうなるかという、病院としてどのようにするのか、あるいは市としてどのような形になるのかというところで、相当違ってくるんだろうなというふうには思っています。仮にそこから脱退したという前提なのか、あるいはそうじゃないのかというところもあれですし、その辺はちょっと今何とも申し上げられませんが、脱会したとすると全額は戻ってこないような話は前々から議論されているところですので、その辺はしかるべきという形、そのときに対応を考えていかざるを得ないのかなというふうに考えております。

○委員長（林 七巳） ほかに質疑ありませんか。

林委員。

○委員（林 正一郎） 景山委員の質問の関連になりますが、あまりやりたくなかったんですがね、2億円の借り入れ、これ普通では運転資金でこのくらいの金は処理できるわけですよ。それはなぜかという、言わなくても分かると思うんですよ、部長、会計課長もね。減価償却、29億六千何ぼやっているわけですよ。その金がキャッシュフローになるわけですよ。だから、2億円やそこらのはした金は借り入れをいちいち起こさなくても、運転資金の中で十分やれるわけですよ。

私、監査の時に散々言ってましたが、減価償却を30億円近くやって、普通の我々三ちゃん企業の場合には減価償却、うちあたりでも当時1億円ぐらいやっていましたがね、今は五、六千万円ぐらいですがね。半分くらいは預金積んでありますよ、剰余金でね。中央病院は一銭も積んでなかったんですよ。私、監査をやった時に、散々4年間質疑してきたわけですよ。だから、その30億円の減価償却をやった20億円だけでもキャッシュフローで剰余金で積んでおけば、10年たてば200億円ですから、今のビルはただで建つ、無借金で建つわけです。

それから考えると、やはりどうしても2億円のこの材料費ね、ここに案件で出ていますが

ね、このくらいはキャッシュで買えないとおかしいなと私は思っている、運転資金の中でね。それで、こういうことがキャッシュで買えないのに、どうして業務手当を、公営企業は全適なんです、これね。だから、要するに経営状況により、その都度事業管理者が別に定めるといふ条例、これをフル活用しているわけですね、はっきり言って。

しかしながら、今、国家公務員、それから地方公務員は給料の減額と言われているわけですよ。そうでしょう。その中で、どうして特殊勤務手当を出さなきゃならないのかということがあるわけです。これ見ても分かるように、5億千百何十万円出ているでしょう、24年度。特殊勤務手当というのは危険手当、不快な、不健康または困難な勤務、その他の著しく特殊な勤務で給与上特別の考慮を必要とするというふうに書いてあるわけですね、そうでしょう。

だから、私は、医師は仕方ないなと思います。夜も寝ないでやるわけですから、手術なんかといたら。だけど、一般行政職は夜寝ないでやるわけじゃないんですから、危険手当もさほどないわけですから、こんなに出す必要ないじゃないかなと私は思っています。これだけ出すなら、5億一千幾らでしょう、これ、24年度に出ているのが。これだけの金を出すなら、5億1,135万円も出ているわけですよ。それなら、2億円のキャッシュで、起債を起こさなくても買えるんじゃないかな。そういった、これから独立行政法人化に持っていくということであれば、やはりしっかりと会計課長、事務部長は肝に銘じて、事業管理者も言うに及ばず頭の中に入れて経営をしていかなければ大変なことになりますよということを、私は老婆心ながら一言質問したわけでございます。その点に対して、明解なご答弁をいただければね。

また、部長も本庁のほうで部長で行くそうでございますが、何で行くか分かりませんが、最低でも次長クラスで行くでしょうから、飛ぶ鳥跡を濁さずということもございまして、部長のご所見をお伺いしたいなと、こういうふうに思います。

○委員長（林 七巳） 林委員の質問に対し、答弁を求めます。

病院事務部長。

○病院事務部長（菅谷敏之史） 今、林委員のほうから非常に適切で適確ないろいろなお話をいただきまして、ありがとうございます。

まず、やはり減価償却がかなり上回っているということは確かに事実でありまして、相当額、ここ数年30億円近い減価償却を行っておりますので、最終的な損益上はかなり厳しいんですが、手元にしてはかなり流動性が増しているというのは一方では事実でありまして、その辺は今後しっかりと見据えた上で対応していきたいと思っております。

また、2つ目の業務手当につきましては、なかなか私としては事業管理者が定めるという規定になっておりまして、事業管理者の判断の基になっておりますので、きょうこういうご指摘をいただいたことは、事業管理者のほうにしっかりとお伝えをしていきたいと思っております。ご理解のほどいただきたいと思います。

以上です。

○委員長（林 七巳） ほかに質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 七巳） 特にないようですので、議案第8号の質疑を終わります。

議案の審査は途中ではありますが、2時15分まで休憩いたします。

休憩 午後 2時 5分

再開 午後 2時15分

○委員長（林 七巳） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き議案の審査を行います。

続いて、議案第9号中の所管事項について、担当課より補足説明がありましたらお願いいたします。

環境課長。

○環境課長（新行内 弘） 議案第9号につきましては、本会議で説明した以外、補足説明はございません。

○委員長（林 七巳） ありがとうございます。

庶務課長。

○庶務課長（横山秀喜） それでは、議案第9号、平成25年度旭市一般会計補正予算の議決について、庶務課所管の補足説明を申し上げます。

初めに、歳出からご説明いたします。

補正予算書の13ページをお開きください。

10款教育費、2項小学校費、1目学校管理費、説明欄1の小学校大規模改造事業は、豊畑小学校と萬歳小学校の屋内運動場の非構造部材の工事です。今年度実施いたしました各小・中学校の屋内運動場の天井、外壁等を中心とした非構造部材の点検結果から実施するもので、

国により平成25年度に前倒しの採択がありましたので、今回補正予算とさせていただくものです。内容は、設計・監理委託料と大規模改造工事費をそれぞれ追加するものであります。

続きまして、補正予算書の14ページをお開きください。

10款教育費、3項中学校費、1目学校管理費、説明欄1の飯岡中学校改築事業です。これは、労務費と資材価格の高騰及び消費税増税による事業費が増加したため補正を行うもので、平成25年度分の予算で計上した全体事業費の20%分について、設計・監理委託料と校舎等改築工事費をそれぞれ追加するものであります。

次に、戻りまして補正予算書の4ページをお開きください。

繰越明許費の補正ですが、追加の10款教育費、2項小学校費、事業名、小学校施設改修事業につきましては、豊畑小学校受電設備改修工事の事業費でありまして、11月補正で予算化いたしました。設備納品に不測の日数がかかり、年度内施工完了が困難となったため、事業費を翌年度に繰り越すものであります。

3項中学校費、事業名、飯岡中学校改築事業につきましては、建設用地の取得が遅れたことから、工事に向けての農地転用や建築確認等の法的手続きが遅れ、年度内着工が困難となったため、事業費を翌年度に繰り越すものであります。

次に、変更の10款教育費、2項小学校費、事業名、小学校大規模改造事業につきましては、補正前の嚶鳴小学校大規模改造工事に加えて、歳出でご説明いたしました豊畑小学校と萬歳小学校の屋内運動場の前倒しの工事でありまして、年度内に工事が完成するための工期確保が困難なため、事業費を翌年度に繰り越すものであります。

予算書の5ページをお開きください。

債務負担行為の補正、変更ですが、飯岡中学校改築事業の債務負担の期間及び限度額を平成25年度から平成26年度までの設定でしたが、事業の進捗の遅れにより平成27年度までの2か年に新年度予算において再設定いたしましたので、今回の補正で削除するものです。

予算書の6ページをお開きください。

地方債の補正ですが、借り入れ限度額の設定を変更いたしました。小学校大規模改造事業は、今回予算計上いたしました豊畑小学校と萬歳小学校の屋内運動場の補正に伴う増となったもので、下段は、飯岡中学校改築事業分の増であります。

予算書の9ページをお開きください。

歳入になります。13款国庫支出金、2項国庫補助金、5目教育費国庫補助金、説明欄の学校施設環境改善交付金5,880万4,000円は、豊畑小学校と萬歳小学校の屋内運動場に係る交付

金で、その下の469万4,000円は、飯岡中学校改築事業に係る交付金で、交付決定により増となったものであります。

以上で、庶務課所管の補足説明を終わります。よろしく申し上げます。

○委員長（林 七巳） 担当課の説明は終わりました。

議案第9号について、質疑がありましたらお願いいたします。

ありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 七巳） 特にないようですので、議案第9号の質疑を終わります。

続いて、議案第10号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

保険年金課長。

○保険年金課長（加瀬喜久） 議案第10号、平成25年度旭市国民健康保険事業特別会計補正予算の議決については、本会議で補足説明した以外に加えての補足説明はございません。よろしく申し上げます。

○委員長（林 七巳） 何か質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 七巳） 特に質疑がないようですので、議案第10号の質疑を終わります。

続いて、議案第11号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いします。

高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（石毛健一） 議案第11号、平成25年度旭市介護保険事業特別会計補正予算の議決について補足説明を申し上げます。

今回補正を行う理由は、前年度繰越金が1億円程度ございましたので、介護給付費準備基金に3,500万円の繰り入れを行わないことによるものと、平成24年度決算において保険給付費等が確定し、国・県・市からの交付金が精算により返還が生じたため補正をお願いするものであります。

補正の内容につきましては、本会議で説明したとおりですので、特に追加してのご説明はございません。よろしく申し上げます。

○委員長（林 七巳） 担当課の説明は終わりました。

議案第11号について、質疑がありましたらお願いいたします。

何かありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 七巳） 特にないようですので、議案第11号の質疑を終わります。

続いて、議案第14号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
病院経理課長。

○病院経理課長（土師 学） それでは、議案第14号、平成25年度旭市病院事業会計補正予算（第2号）の議決について、病院事業所管の補足説明を申し上げます。

補正予算書の8ページをお開きください。

平成25年度旭市病院事業会計補正予算（第2号）実施計画内訳書でございます。

収益的支出は、1款1項1目2節手当の1億8,000万円の増額につきましては、若年層の給与改定分や医師に対する日当直手当・救急手当・呼出手当の拡充による増額となります。また、4節賃金2億円の増額については、パート医師の人数が前年より月約15名増加により増額補正するものです。

2目1節薬品費1億円の増額については、化学療法における抗がん剤等高額薬品の使用増加、2節診療材料費1億3,000万円の増額については、冠動脈形成術やペースメーカー植込術等の高額手術件数の増加による増額により補正するものです。

4目1節減価償却費6,000万円、2項3目1節繰延勘定償却6,000万円の減額につきましては、予算計上時前年度の固定資産購入実績と購入見込予定額で予算算出しておりましたが、決算により購入額が決定したことにより減額補正するものです。

以上、議案第14号、病院事業所管の補足説明を終わりにさせていただきます。よろしくお願ひいたします。

○委員長（林 七巳） 担当課の説明は終わりました。

議案第14号について、質疑がありましたらお願いいたします。

質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 七巳） 特にないようですので、議案第14号の質疑を終わります。

続いて、議案第16号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
健康管理課長。

○健康管理課長（野口國男） それでは、議案第16号、旭市歯と口腔の健康づくり推進条例の制定につきましては、本会議で補足説明申し上げたとおりでございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

○委員長（林 七巳） 質疑がありましたらお願いいたします。

(「なし」の声あり)

○委員長(林 七巳) 特にないようですので、議案第16号の質疑を終わります。

続いて、議案第24号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
子育て支援課長。

○子育て支援課長(山口訓子) 議案第24号、旭市保育所条例の一部を改正する条例の制定につきましては、本会議で補足説明を申し上げたとおりでございますので、よろしくお願いいたします。

○委員長(林 七巳) 質疑がありましたらお願いいたします。

佐久間委員。

○委員(佐久間茂樹) どうもご苦労さまです。

ちょっと気になったのは、旧保育所、三川保育所と中央保育所ですね、がどういうふうになるのかなと思ったんですが、分かれば、先の話なのかもしれないですけども。

○委員長(林 七巳) 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

子育て課長。

○子育て支援課長(山口訓子) 旧保育所2つにつきましては、一応新年度予算でも解体、撤去工事費を計上させていただいてありますが、新年度内に解体、撤去いたしまして、その後は三川のほうは市有地でございます。それから、飯岡中央保育所のほうは八幡神社に借りておりますので、その地主のほうとまた協議を進めていきたいと思っております。今のところ、まず解体、撤去は決まっておりますが、その後どうなるかははっきりしておりません。

以上でございます。

○委員長(林 七巳) ほかにありませんか。

(「なし」の声あり)

○委員長(林 七巳) 特にないようですので、議案第24号の質疑を終わります。

続いて、議案第25号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
子育て支援課長。

○子育て支援課長(山口訓子) 議案第25号、旭市児童遊園設置条例の一部を改正する条例の制定につきましては、やはり本会議で補足説明を申し上げたとおりでございますので、よろしくお願いいたします。

○委員長(林 七巳) 質疑がありましたらお願いいたします。

(「なし」の声あり)

○委員長（林 七巳） 特にないようですので、議案第25号の質疑を終わります。

続いて、議案第26号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
子育て支援課長。

○子育て支援課長（山口訓子） 議案第26号、旭市ひとり親家庭等医療費等の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定につきましては、やはり同じように本会議で補足説明を申し上げたとおりでございますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（林 七巳） 特にないようですので、質疑がありましたらお願いいたします。
（「なし」の声あり）

○委員長（林 七巳） 特にないようですので、議案第26号の質疑を終わります。

続いて、議案第27号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
環境課長。

○環境課長（新行内 弘） 議案第27号、旭市土砂等の埋立て等による土壌の汚染及び災害の発生の防止に関する条例の一部を改正する条例の制定についての補足説明を申し上げます。

本議案については、本会議で補足説明を申し上げたとおりでございますが、条例の一部改正に伴い、関連する旭市土砂等の埋立て等による土壌の汚染及び災害の発生の防止に関する条例施行規則の一部を改正いたしますので、ご説明いたします。

主な改正内容は、許可申請に必要な添付書類に、新たに小規模埋立て等区域に隣接する土地所有者の同意を証する書面及び小規模埋立て等区域から、周囲200メートル以内の居住者及び農業用施設、事業用施設の所有者の4分の3以上の承諾書を添付書類として加えます。

これらにつきましては、事業者近隣住民等に対する事業計画の周知徹底や合意形成など図る目的から添付を義務付けるものであります。

また、例外規定といたしまして、認可された山砂での埋立て事業については、省略できることといたします。

施行日は、平成26年7月1日でございます。

なお、条例及び規則の改正内容等は、4月号の広報あさひ、市ホームページ等で広く周知を図ってまいりたいと思います。

以上、議案第27号の補足説明を終わります。

○委員長（林 七巳） 担当課の説明は終わりました。

議案第27号について、質疑がありましたらお願いいたします。
佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） 周囲200メートルですか、中心からじゃないですね、周囲200メートルですよ。それで、大変なのかなと思ったんですけども。今いろいろうちのところも話がありまして、埋め立てする前の土壌調査をなさいと、埋める土も土壌調査をなさいと、土壌試験をね。15万円か20万円くらいかかるんですけども、1回。

きのうもちょっと話があったんですけども、埋め立てを終わってからもう1回、要するに申請のときは大丈夫だけれども、許可が出てから工事が終わるまでの間に何かあるかわからないという話で、もう1回調べるといって話に来たんですよ、実際の話なんですけれどもね。そういうことまではしなくてもいいんですね、これは、この件は。

○委員長（林 七巳） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

環境課長。

○環境課長（新行内 弘） 残土につきましては、当然搬入前に検査を行い、搬入を終わってからでも検査を行います。

以上でございます。

（発言する人あり）

○委員長（林 七巳） いいですか。

そのほかありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 七巳） 特にないようですので、議案第27号の質疑を終わります。

続いて、議案第31号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐久間 隆） 議案第31号、社会教育委員に関する条例の一部を改正する条例の制定につきましては、本会議でご説明してございますので、以上でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長（林 七巳） 特にないようですので、質疑がありましたらお願いいたします。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 七巳） 特にないようですので、議案第31号の質疑を終わります。

続いて、議案第33号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いします。

病院医事課長。

○病院医事課長（片見武寿） それでは、議案第33号、旭市病院事業使用料及び手数料条例の一部を改正する条例の制定について、病院事業所管の補足説明を申し上げます。

主な改正点についてご説明いたします。

新旧対照表の71ページをご覧ください。

現在、初診時と再診時に選定療養費を負担いただいておりますが、国の政策に沿って、さらに病院の機能分化を推進するため、金額を改めるものです。

初診時に紹介状を持っていない場合に初診時選定療養費として負担いただく額を現在の税込み2,100円から税抜き2,700円に改めるとともに、症状が安定して他の医療機関を紹介したにもかかわらず当院を希望して再受診した場合に再診時選定療養費としてご負担いただく額を現在の税込み530円から税抜き1,000円に改めるものです。

以上で、議案第33号、病院事業所管の補足説明を終わります。よろしく願いいたします。

○委員長（林 七巳） 担当課の説明は終わりました。

議案第33号について、質疑がありましたらお願いいたします。

景山委員。

○委員（景山岩三郎） 3点ほど質問します。

先に委員長、質問が3点ありますので1点ずつでよろしいでしょうか。

○委員長（林 七巳） どうぞ、ご自由にやってください。

○委員（景山岩三郎） では、質問させていただきます。

選定療養費の増額については、市民にとっては負担増となりますが、国が病院の機能分担化を進めていることからやむを得ない面だと思いますが、そこで質問いたします。

第1問、旭中央病院に初診として受診する患者さんのうち、紹介状を持たずにこの選定療養費を支払う患者さんの割合は、現在のところでは病院全体、そして旭市民はどの程度いるのかお伺いをいたします。

○委員長（林 七巳） 景山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院医事課長。

○病院医事課長（片見武寿） それでは、直近の2月の数字でお答えいたします。

2月の病院全体の初診の患者数は5,575件でした。そのうち紹介状の持参がなく選定療養費の対象となった患者数は1,824件で、全体の32.7%、次に、市民の数字ですが、初診患者数が5,575件のうち2,209件、そのうち選定療養費の対象となった患者は804件、36.4%で、市民の方が紹介状を持ってこない比率がやや高いという状況になっております。

以上です。

○委員長（林 七巳） 景山委員。

○委員（景山岩三郎） 2点目を伺います。患者さんにとっては、4月以降、一度診療所等を受診し紹介状を持って旭中央病院にかかる場合と、最初から旭中央病院を受診しこの選定療養費を支払う場合、自己負担増の差はどの程度になるのかお伺いをいたします。

○委員長（林 七巳） 景山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院医事課長。

○病院医事課長（片見武寿） それでは、まず診療所等を受診した後に当院を受診した場合の自己負担の金額ですが、まず診療所側での負担額です。初診料が282点、紹介状にかかわる診療情報提供料が250点、合計で532点になります。その3割分の自己負担額は1,596円になります。さらに、その後当院で初診料282点、3割分の自己負担額が846円となり、2つの医療機関での合計が2,442円となります。

次に、紹介なしで当院を直接受診した場合ですが、初診料が282点、自己負担額が3割分で846円、それに加えて紹介状がないための選定療養費2,916円をご負担いただきますので、合計で3,762円となり、紹介状を持参したほうが1,320円少ない負担となります。

以上です。

○委員長（林 七巳） 景山委員。

○委員（景山岩三郎） もう1点お伺いいたします。患者さんにとっては、やはり紹介状を持っていくメリットが明確に分かれれば、多くの患者さんが持ってくるようになると思います。病院としても、紹介状を持参した患者さんに対して金銭面以外にメリットがあるかどうか、そして、これからどのような取り組みを進めていくのかどうかお伺いをいたします。

○委員長（林 七巳） 景山委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院医事課長。

○病院医事課長（片見武寿） それでは、取り組みでございますが、紹介状を持参した患者さんに対しては、紹介状を持たない患者さんよりも診療順を優先する取り組みを始めました。具体的には、内科外来で紹介状持参の方と持っていない方の受付を分離いたしまして、紹介状持参の方が優先的に診療に入れるような運用を2月より実施しております。さらに、内科以外でも皮膚科、小児科、眼科、婦人科、産科でも紹介状の持参者の優先診療を開始しており、今後は全科で同じような対応ができるような準備を進めております。

また、診療面でも、かかりつけ医での診療データの提供を紹介状に書いていただくことで、当院の診察で迅速な診断、治療等が行えるというメリットもございますので、ぜひそのような形でお願いしたいと考えております。

以上です。

○委員長（林 七巳） 景山委員。

○委員（景山岩三郎） 答弁いりません。要望で、すみません、お願いいたします。

だいぶそのような取り組みはいいですよ。ぜひ市民の皆さんによく周知していただきたいと思います。そこでもう一つ、薬をもらう時間もそういうのにぜひ検討してもらえれば大変うれしいと思うんですけれども、これは要望でございますので、ぜひこれからも検討、勉強してもらいたいと思います。どうもありがとうございます。

○委員長（林 七巳） ほかに質疑はありませんか。

高橋委員。

○委員（高橋秀典） 1点だけお伺いしたいと思います。

73ページなんですけれども、下の段、一番下の妊娠出産ということに関して、私あまり詳しくない上でお伺いするわけなんですけれども、この備考欄ですね、備考欄のほうに特別なリスク管理を行った場合3万円、また特別な新生児処置を行った場合1万円の加算というふうになっていますけれども、ちょっと私の記憶だと、この備考のご説明のときにケースとして高齢出産の場合ですとかリスクが増えるというようなこともお話にあったかと思うんですけれども、市のほうで今回少子化対策の一環として不妊治療費の補助ということを片方でやっていますので、素人なんで分かりませんが、やっぱり不妊治療からという確率的に高齢でのということが増えてくるのかなというふうに推測するんですが、そうなった場合、ちょっと懸念するのは、片や少子化対策という面ではアクセルとブレーキになっちゃいけないかなという思いがするのと、もう一つは、両方の処置、例えばリスク管理及びまた特別な新生児処置があった場合には両方併せて4万円という加算になるのかなと、その2点、お伺いしたいと思います。

○委員長（林 七巳） 高橋委員の質疑に対し、答弁を求めます。

病院医事課長。

○病院医事課長（片見武寿） 現在のこの地域の産科の状況なんです、当院を含めて幾つかの開業医の産科がございます。ただ、こういうリスクを抱えた患者さんというのは最近多くなっています、そのほとんどが当院へ来るというような状況にありまして、リスクの高い方が当院に集まっているという状況があります。そこで、当然医師、看護師等が、同じ正常分娩なんですけれども、かかる時間とかいろんなところで手間がかかるということもありまして、3万円をいただきたいということです。

さらにもう1点、新生児のほうなんですけど、こちらもそういった患者さんの出産時に新生児に対して、今度は産科ではなく新生児科のドクターがそこに付きまして、処置が必要な場合に処置を行うということなんで、こちらのほうもご理解いただきたいと思います。

両方をということですけども、そちらのほうも、今もご説明いたしましたとおり産科のドクターと新生児科のドクター、それぞれ母親と子どもという形での処置になりますので、両方併せてというケースもございます。

以上です。

○委員長（林 七巳） いいですか。

（「はい」の声あり）

○委員長（林 七巳） ほかにありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 七巳） 特にないようですので、議案第33号の質疑を終わります。

続いて、議案第34号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いいたします。
社会福祉課長。

○社会福祉課長（加瀬恭史） 議案第34号、訴えの提起について、補足説明を申し上げます。

本会議での補足説明と重複する部分もありますが、よろしくお願ひいたします。

本案は、平成22年7月から平成24年7月までの期間、指定就労継続支援B型事業所あじさい工房を営む特定非営利活動法旭市人手をつなぐ育成会の当時の会長が、訓練等給付費を不正に受給していたにもかかわらず、いまだに返還に応じないため、損害賠償の訴えを提起すべく提案するものであります。

不正受給は、育成会の当時の会長が、利用者が実際に利用された日数よりも2,607日分増し請求していたことによるもので、不正受給額の合計は1,939万9,130円となりました。

市においては、不正受給額の回収に向けまして、当該法人である旭市手をつなぐ育成会には障害者自立支援法第8条に基づく請求を行うとともに、法人が所有する財産の差し押さえも視野に入れて交渉を始めましたが、差し押さえ等を行う前に、当該法人が所有する預金の全てを引き出し、その額は19万9,967円でしたが、返還金の内入れとして納付してきた次第です。これにより、差し押さえるべき法人名義の財産はほかに見当たらない状態となっております。しかし、当該法人には、引き続き催告書を発送し返還を求めているところであります。

一方、育成会の当時の会長においては、自らの非を認め、市に対して不正請求額分を返還

する旨の誓約書を提出しております。その後、請求、督促、催告を続けておりますが、全く履行されておられません。

当時の会長個人に対しましては、たとえ誓約書があっても、市が一方的に預金等の財産を差し押さえる等の強制執行はできません。強制執行をするためには、民法第709条を根拠に損害賠償の民事訴訟を起こし、判決をいただくことが必要となります。これを怠りますと、平成27年7月で本人へ請求できる権利が時効を迎えてしまいます。訴訟を行えば、本人への請求権は判決から10年先まで延長させることができます。

なお、事件発覚当時の特定非営利法人、略してNPO法人といいますが、旭市手をつなぐ育成会には、当時の会長以外に4人の理事がおりました。そこで、他の理事に対して法的に責任を追及できるかどうかについてご説明いたします。

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律、並びに会社法、農業協同組合法におきましては、「当該役員等は、第三者に生じた損害を賠償する責任を負う」旨の条文がございます。しかし、ただいまのNPO法人の根幹をなす特定非営利活動促進法には、この条文がございます。特定非営利活動促進法第8条によりますと、一般財団法人及び一般社団法人に関する法律第78条の規定を準用することになりますが、ここには「理事等が職務の執行にあたって他人に損害を与えた場合、NPO法人が損害を賠償する責任を負う」ということは書かれておりますが、逆に、「NPO法人の行為についての損害を理事が賠償する責任を負う」とまでは規定されておられません。そうであるならば、民法による適用は可能かということになりますが、民法第709条による損害賠償請求につきましては、「故意又は過失によって」とあり、当時の会長につきましては、まさにこの条文による訴訟を起こすわけでございますが、他の理事については、当時の会長が行った不正請求を見抜けなかったことが、理事に故意または過失があったとまでは言えないということで、市が他の理事の不法行為を証拠等をもって立証しなければ、損害賠償請求の訴訟を提起すること自体ができませんので、ご理解をいただきたいと思います。

そこで、当時の会長に訴えの提起を起こすものでありますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上で、議案第34号の補足説明を終わらせていただきます。よろしくお願ひいたします。

○委員長（林 七巳） 担当課の説明は終わりました。

議案第34号について、質疑がありましたらお願ひいたします。

米本委員。

○委員（米本弥一郎） 皆さん、ご苦労さまでございます。

この件につきましては、平成25年第2回定例会などで議論があったと承知しております。その議論を踏まえた最善の提案であろうと思いますが、市民を訴えるということはまさに断腸の思いであります。しかし、市民の財産が不正に奪われたわけですから、これを取り戻さなければなりません。罪を憎んで人を憎まずという考えで訴えを起こすのだと思います。この点は、執行部も委員長、議長はじめ、私ども、先輩委員、同僚委員も全く同じだと思います。

そこでお尋ねします。この裁判の見通しについて、まずお願いいたします。

○委員長（林 七巳） 米本委員の質疑に対し、答弁を求めます。

社会福祉課長。

○社会福祉課長（加瀬恭史） 見通しといたしますと、とりあえず本人もこの案件については非を認めているというようなことがございますので、この訴えを起こしたことによって市が、極論を言えば負けるというようなことはないのかなと考えております。

ただし、その行く末ですね。例えば差し押さえをすとかそういうことになりましたときに、その金額はどうだとかいうことについては不透明なところでございます。そういったことでよろしいでしょうか。

○委員長（林 七巳） 米本委員。

○委員（米本弥一郎） お返事のとおり、多分勝訴判決は得られると思いますが、その先の見通しまで考えないと、単に費用をかけて何も取り戻せなかったということで終わってはかえって持ち出しになってしまいますので、その辺についてもう一度お願いしたいと思います。

○委員長（林 七巳） 社会福祉課長。

○社会福祉課長（加瀬恭史） 本人の財産がどうというのは、ちょっと不透明なところがございますけれども、不正しました金額というのは1,900万円に及ぶわけで、その全てが消失しているかどうかというのは考えにくいということがございまして、当初、前会長ですか、元会長が全額返還をするというようなことも言っておりましたし、内部の方に漏らしたことによりますと、1,200万円ぐらいいは用意ができたというようなことも言っていたということもございますので、そのあたりである程度の返還が見込めるのではないかと考えております。

○委員長（林 七巳） ほかにありませんか。

高橋議長。

○議長（高橋利彦） それではお尋ねしますが、ここにありますのは22年7月から24年7月ま

での間ですね、とありますが、この間、この手をつなぐ育成会では全然監査をしていなかったのか。当然、私は監査していると思うんですね。監査して、役員がこれは、例えばめくら判であっても何でも判は押していると思うんですよ。判を押したということは、これは知らないということは通らないと思いますね。

それから、この手をつなぐ育成会からの19万九千何ぼですか。これは小澤さん個人からですか、それとも手をつなぐ育成会からなんですか。

それから、先ほど個人云々ということがありましたが、この手をつなぐ育成会への入金はい小澤さん個人の口座であったんですか。それとも、手をつなぐ会の代表への入金であったのか。あまり何点も質問しますと答弁に困っちゃうんで、少しずつ質問します。

○委員長（林 七巳） 高橋議長の質疑に対し、答弁を求めます。

社会福祉課長。

○社会福祉課長（加瀬恭史） まず1点目の、内部での監査は行われていたかということでございます。判を押したかどうかという、法人ですので、法人の内部でどの程度まで行われたかということまでちょっとあれですけれども、こちらで把握は難しいんですけれども、説明によりますと、1年目、22年7月から事業を始めまして、翌年の23年の春には総会での説明があったと聞いております。そしてまた2年目、1年目は半年強の事業でしたので、その説明を受けて総会でもご苦労さまでしたというようなことで、大変な事業を始めてというようなことで終わったと聞いております。2年目になりまして、24年の春には2回目の総会がございまして、そのときに収支等について少し疑問があるということで、今回の事件が発覚していった流れがあります。

それと、2点目の19万円の返済金については、どこからかということですが、これは手をつなぐ育成会からの返還でございます。

3点目なんですが……

（発言する人あり）

○社会福祉課長（加瀬恭史） すみません。こちらからの振り込みの名義ですね、それは会の口座に振り込んでおります。そこから会長が引き落としているということでございます。

○委員長（林 七巳） 高橋議長。

○議長（高橋利彦） そうしますとね、総会をやっているということは、当然監査を受けた中で総会でオーケーが出たわけですね、承認されたわけですね。ということは、幾ら私は知らないといっても、これはみんなが承認しているわけですから、当然連帯責任になるということ

ですね。

それから、会からこの金を市のほうへ残金が振り込まれたということですが、これはやはり個人じゃなく会ですから、会の当然責任ですね。結局、市からじゃないですけども、これはね、連合会のほうから振り込みされたんでしょうけれども、しかしこれはあくまでも個人じゃないんですよ。その辺、まずどう思うのかお尋ねします。

○委員長（林 七巳） 高橋議長の質疑に対し、答弁を求めます。

社会福祉課長。

○社会福祉課長（加瀬恭史） ただいまの1点目ですね、総会等が行われているので連帯の責任があるのではないかとということでございましたが、NPOの性格上、理事の責任といえますのはほかの会社法などに比べまして弱くなっているということもございます。そんな関係で、道義的な責任はあろうかと思えますけれども、市が、先ほど言いましたように法律をもって責任を問うというまでは至らないというふうに考えております。

○委員長（林 七巳） 終わりか。

○社会福祉課長（加瀬恭史） ただいま法人のほうの責任でございます。法人には当然責任がございまして、併せて催告等は、まだ残金がたくさんありますので、法人に対して催告を行っております。法人の責任は当然あると思えます。

○委員長（林 七巳） 高橋議長。

○議長（高橋利彦） そうしますとね、監査を受けた中で総会を開いているわけですね。そうしますと、全ての人がこれは承認したということの中で、今度は個人の責任じゃなく全ての役員の責任だと思うんですよ。

それから、会から市のほうへ残金を振り込んであるということは、会も承認したから振り込んであるわけですね。それから、結局連合会のほうから、市から直接じゃなくて連合会から振り込んであるんですが、小澤さん個人に振り込んだわけじゃないわけですよ。そうしますと、全てこれは会がやっているということですね。それをなぜ、小澤さんが使ったからって小澤さんに請求するのか。それはあくまでも小澤さんと会の関係である、会と市の関係でだと思えます。それは明確に答弁していただきたいと思えます。

○委員長（林 七巳） 高橋議長の質疑に対し、答弁を求めます。

社会福祉課長。

○社会福祉課長（加瀬恭史） 今、法人ですね、会のほうを通して市から振り込んでいるということで、当然法人にはその責任がございまして。それで、法人にも行っております。どうし

て本人に行っているかという、不法行為によりまして詐取しているということで、その不法行為に対しまして市としては裁判を起こしていきたいと考えております。

(発言する人あり)

○社会福祉課長(加瀬恭史) あと、先ほど言いましたように、総会で承認をしておりますが、その中に不法行為までは見抜けなかった。その見抜けなかった行為によって理事がそこまで責任を負うかということについては、そこまでは追及できないといいますか、負いきれないということで、今回は不正を行った本人に対して訴えを起こしていくものであります。

○委員長(林 七巳) 林委員。

○委員(林 正一郎) 課長、あまりやりたくないけれどね、この理事や監事と役員とNPO法人の関係は、責任が問われる場合ということがあるわけですよ、この中でね。役員は、いわゆる善管注意義務というのがあるわけですよ、理事、監事は。だから、善良な管理者としての注意義務を負うとされることになっているわけ。それが要するに民法の644条ですよということになっていくわけですよ。

それともう1点、私が第一義的に言いたいことはね、昔から「百両のかたに編み笠一蓋」という言葉がありますよね。だから、実際にこの小澤さんの資産をある程度、約2,000万円ですね、これをこのくらいの資産があるのかなと、また預金とかそういったものもあるのかなということ把握して提訴しているのかなということも併せて聞きたいなと、こう思っているわけですよ。まごまごしていると弁護士代のほうが高くなっちゃって一銭も取れなかったと、そういった事態になった場合には、盗人に追い銭ということになっていっちゃいますね。それじゃ大変なことになるから、やはり私はその点も注意していかなきゃいけないなと、こう思っているのよ。

だから、順序、法ということ、私も法の専門家じゃないから、役所のほうは弁護士さんと相談してやっているだろうと思いますが、私これを追って行ってあんたとやり合ってもしょうがないから私はやめますがね、ただ、小澤さんの財産をある程度把握している、あじさい工房とNPO法人の資産をある程度把握しているのか。2,000万円請求したって一銭もなかったと、弁護士料だって大金かかりますよ、そうでしょう。

だから、そこらを把握しているのかどうか、ちょっとお聞かせ願います。

○委員長(林 七巳) 社会福祉課長。

○社会福祉課長(加瀬恭史) 先ほどの民法644条の善良な管理者の注意をもってすることですけども、理事は、法人に対しまして定款に定める範囲において管理注意義務を負

うんですけれども、本件の場合、水増しを見抜けなかったことが善良なる管理者の義務に反したとまでは言えないのかなという判断であります。

それと、いま一つの、相手方の財産を把握しているかということでございますけれども、財産は本人がこちらに開示をしておりますので把握はしておりません。そういう状況でございます。

○委員長（林 七巳） 林委員。

○委員（林 正一郎） すると、何も無いのを相手にして裁判かけたって、これ、あんた、困りますよ、本当のこと言って。「空馬荷を帰さない」ということがあるでしょうよ。昔から「百両のかたに編み笠一蓋」ということもあるでしょうよね。だから、ある程度それは役所ですから、固定資産税等調べれば、税務課でね、佐藤課長に聞けば分かるでしょうよ。それを何にも把握してないで、形式的に裁判かければいい、提訴すればいいわでは、私はどうかと思います、課長。それ以上私は申しませんが。

それで、一般法人と違うと、非営利法人だとNPOはということでございますが、やはりそこで副理事長とか役員になっているでしょうよ、2人も、優秀な財産のある方がさ、お金、旭市でも一、二を争う財産家がやっているでしょうよ。だから、その人には請求できないのかなと、私は彼らにちょっと言ったんですよ。あんた方責任はありますよということをやったんですがね。その点はどう考えているのか、ちょっと簡単でいいですからお聞かせください。

○委員長（林 七巳） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

社会福祉課長。

○社会福祉課長（加瀬恭史） 財産の確認でございますけれども、不正額が1,900万円に及ぶということで、その差額などを類推するとまだ相当どこかに持っているのではないかとこの憶測だけで、実際に財産を開示していない、その方法がございませんので、ちょっと把握ができなかったというのが現実です。

それと、他の理事ですね、副理事長というか、その理事の責任でございますけれども、NPO法人の特定非営利活動促進法の8条においては、NPO法人の代表者の行為において損害賠償責任は、一般財団法人、一般社団法人に関する法律の第78条の規定に準用してというのが先ほどありましたけれども、それで、理事等が職務の執行に当たって他人に損害を与えた場合は、NPO法人が損害を賠償する責任を負うと、NPO法人の行為について損害を理事が賠償する責任を負うことはここでは規定されていないということが一つございます。それ

と、会社法、農業協同組合法の法律には、役員がその職務に当たっての責任を負うということがありますがけれども、このNPO法人の法律にはその規定がないということで、その辺がちょっと難しいのかなというふうに考えております。

NPO法人の理事については、法人が行った行為について道義的に責任は有すると考えられますけれども、明文化された規定がないために、法的根拠を持って責任を追及できるものではないのかなというふうに考えております。その理事が共謀していたとか、そういった事実を証明できれば別ですけども、そういうことがない場合には非常に難しいのかなということで、先ほどの民法644条ですか、そこの注意義務を怠ったということで追及していくにも非常に無理があるのかなというふうに考えているところであります。

○委員長（林 七巳） 議長。

○議長（高橋利彦） お尋ねします。まず、この裁判費用はどのぐらいかかるのか。それから、課長が今いろいろ理由を述べておりましたが、これは課長が幾らいろんな条文を読んで何だかんだ言っただけで、また弁護士と相談したからって、これは弁護士が決めることじゃないんですよね、最終的には。最終的な答えは裁判所なんですよ。あなた方が幾ら言ってもね。

ですから、裁判費用がどのぐらいかかるのか、まず裁判に訴えるべき。それで、そんな中でやはりあくまでも取るという大前提のもとに裁判をする。それには個人じゃなく全ての方を対象にしてやる、これが大前提だと思うんですね。

それと、課長は小澤さんが云々言いましたけれども、課長の考えは、小澤さんが市の金を横領したのか、それとも小澤さんがNPO法人の金を横領したのか。その辺、明解に答えていただきたいと思います。

○委員長（林 七巳） 議案の審査は途中ではありますが、ここで3時30分まで休憩いたします。

休憩 午後 3時13分

再開 午後 3時30分

○委員長（林 七巳） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き議案の審査を行います。

社会福祉課長。

○社会福祉課長（加瀬恭史） ただいまのご質問にお答えいたします。

まず、裁判費用の関係でございますけれども、顧問弁護士に相談した中では、本人が認めているとかそういうような状況の中で、1回で結審するのではないかというような状況も踏まえまして、着手金と成功報酬併せまして20万円ということで一応予定しております。

（発言する人あり）

○社会福祉課長（加瀬恭史） 2番目に、全ての理事から回収ができるのではないかとということでございましたけれども、先ほども言いましたように、他の理事を訴えることがなかなか難しいと、その理事の不法行為あるいは故意または過失というものを立証できなければ、他の理事を訴えることはできないということで、法人を訴えることはできるんですけれども、他の理事までの追及は市からは難しいというのがございます。法人につきましては、財産がないということが開示されておりますので、今回は行わないということでございます。

それと、元会長が会から取ったんじゃないかというお金ですけども、会からは横領という形で行っております。市からは、市へ不正な水増しの請求をしましたので、詐欺行為ということで、市からは詐欺行為によって詐取したということでございます。ですから、当然会からは横領、市からは詐欺行為によって取ったと。1回目は、一時的には会の金に入っておりますけれども、そのときは代表する会長でございましたので、そこから引き出して、そのお金がどこへ行っているか分かりませんが、引き出しているということで、不正行為を働いた本人を訴えるということで今回の提案でございます。

○委員長（林 七巳） 高橋議長。

○議長（高橋利彦） 今、裁判費用全て込み込みで20万円という話なんですけど、一般的には2,000万円といたら着手金、それから成功報酬で約100万円かかるはずなんです。その中で、これでは最初からただパフォーマンス、市は言い逃れのための裁判なんです。

それから、個人云々という話なんですけど、なぜ、手をつなぐ会の組織、それからその理事らに対して全てに網をかけた裁判をやらないのか。市から詐欺という話ですね。詐欺したのは小澤さんじゃないでしょう。手をつなぐ会でしょう。手をつなぐ会の預金から小澤さんが横領したということなんですよね。そうでしょう。ちょっとね、あなたは認識違いしていると思うんです。

それから、会とか個人に請求してあるという話ですが、これはちゃんと法的な請求をしてあるのか。ただ請求書を渡したのか、それとも郵便局から内容証明で出してあるのか、その辺お尋ねします。

○委員長（林 七巳） 高橋議長の質疑に対し、答弁を求めます。

社会福祉課長。

○社会福祉課長（加瀬恭史） 先ほど、詐欺をしたのは本人ではないのではないかということですが、本人が事務を掌握しておりまして、それで請求そのものも本人がしたというのを認めておりまして、その行為によって市から詐取したということですので、本人の不法行為、市としては本人が不法行為を行ったというふうに認識しております。詐欺行為そのものは法人ではなくて個人ですね、詐欺行為というのは人が該当するものなので、刑法にはそういうふうにかかれているということで、本人だと考えております。

（発言する人あり）

○社会福祉課長（加瀬恭史） 認識では、犯罪を犯したのは個人である、人であるということで、前会長が自分が責任を負うということも提出しておりますので、そのあたりで本人に請求するものです。

○委員長（林 七巳） 林委員。

○委員（林 正一郎） そうしますと、詐欺行為で刑事告訴もしたんですか。今あなたのお話を聞くとそういうことになりますので、ちょっとご答弁願います。

○委員長（林 七巳） 社会福祉課長。

○社会福祉課長（加瀬恭史） 個人本人、前会長に対しましては刑事告訴しております。

（発言する人あり）

○委員長（林 七巳） 委員長権限でなしにする。

特にないようですので、議案第34号の質疑を終わります。

続いて、議案第35号について、担当課より補足して説明がありましたらお願いします。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐久間 隆） 議案第35号、指定管理者の指定については、本会議で補足説明を申し上げたとおりでございます。よろしく願いいたします。

○委員長（林 七巳） 特にないようですので、質疑がありましたらお願いいたします。

島田委員。

○委員（島田和雄） それでは質問しますが、指定管理者ということで指定管理料1,080万円で指定管理をお願いしたということですが、海上のキャンプ場は大変広い場所と、それからいろんな施設がありますけれども、そういった施設の維持管理費と使用した場合の使用料とか、そういうのはどのような扱いになるのか、その辺についてお伺い

します。

○委員長（林 七巳） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐久間 隆） それでは、島田委員のご質問にお答えいたします。

1,080万円、1年間の維持管理運営費、全て含んでおります。中にはバンガロー、体育館の維持管理、補修全て含んだ金額でございます。

それで、指定管理料なんですけれども、1,080万円の根拠といいますと、一応3年間の運営経費、これの平均に年間の使用料、これはバンガロー、体育館含めまして一番多い年で約160万円ほど収入がございました。その1年間の経費とその160万円を引きまして指定管理料にしてございます。それから、海上キャンプ場の職員が1人そこに配置されますので、その海上キャンプ場に1人の人件費相当分を150万円と計算しまして、年間の運営費が約1,100万円ほどかかっておりますので、収入の160万円をそこから引きまして940万円になります。人件費約150万円を加えまして約1,090万円、それで指定管理料として1,080万円という形で上限を定めたものでございます。

以上でございます。

○委員長（林 七巳） 島田委員。

○委員（島田和雄） このキャンプ場につきましては、非常にいい環境の中であるわけでありましてけれども、最近、利用者がそんなに多くないのかなというような実感を持っているわけなんですけれども、これにつきまして、指定管理される団体のほうから、何らかの利用者をふやすための提案とかそういうのがあったのかどうか、その辺についてお伺いします。

○委員長（林 七巳） 島田委員の質疑に対し、答弁を求めます。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐久間 隆） 今回、指定管理を公募した際に、いろいろ事業計画書を提出していただきまして、その申し込みの事業者のほうから自主事業、自分たちでやる自主事業をいろいろですね、キャンプ場の利用率を上げるための自主事業というのを提案いただいておりますので、それでももう少し利用が図れるかと思っております。

○委員長（林 七巳） 林委員。

○委員（林 正一郎） 簡単に1点だけお聞きしたいのですが、これは無論入札でしょう。何人応募があったか、それをお聞かせ願います。

○委員長（林 七巳） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐久間 隆） 今のご質問ですけれども、一応10月7日に現地説明会をやった際は、4事業者に来ていただきまして説明をしております。実際に申請があったのは2事業者でございます。

○委員長（林 七巳） 林委員。

○委員（林 正一郎） 私ね、何で今そういう質問をしたかと申しますとね、地元でないのかなということ。やはり市長の公約にもありますように、地産地商ということを行っているわけですね。旭市の市長の地産地商は「消」ではなく「商」のほうですね。だから、私は地元の人でこういった応募者はなかったのかと、それをちょっとご答弁願います。

○委員長（林 七巳） 林委員の質疑に対し、答弁を求めます。

生涯学習課長。

○生涯学習課長（佐久間 隆） 指定管理は公募が原則でして、市はもとよりですけれども、千葉県内、それから東京、近隣の市まで公募対象といたしまして、地元からは残念ながら応募する事業者がなかった、そういうわけでございます。

○委員長（林 七巳） 特にないようですので、議案第35号の質疑を終わります。

以上で、付託議案についての質疑は終わりました。

ここでしばらく休憩いたします。

休憩 午後 3時44分

再開 午後 3時50分

○委員長（林 七巳） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の採決

○委員長（林 七巳） これより、討論を省略して議案の採決をいたします。

議案第1号、平成26年度旭市一般会計予算の議決についてのうち本委員会所管の事項について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 七巳) 全員賛成。

よって、議案第1号は原案のとおり可決されました。

議案第2号、平成26年度旭市国民健康保険事業特別会計予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 七巳) 全員賛成。

よって、議案第2号は原案のとおり可決されました。

議案第3号、平成26年度旭市後期高齢者医療特別会計予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 七巳) 全員賛成。

よって、議案第3号は原案のとおり可決されました。

議案第4号、平成26年度旭市介護保険事業特別会計予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 七巳) 全員賛成。

よって、議案第4号は原案のとおり可決されました。

議案第8号、平成26年度旭市病院事業会計予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 七巳) 全員賛成。

よって、議案第8号は原案のとおり可決されました。

議案第9号、平成25年度旭市一般会計補正予算の議決についてのうち、本委員会所管事項について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 七巳) 全員賛成。

よって、議案第9号は原案のとおり可決されました。

議案第10号、平成25年度旭市国民健康保険事業特別会計補正予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 七巳) 全員賛成。

よって、議案第10号は原案のとおり可決されました。

議案第11号、平成25年度旭市介護保険事業特別会計補正予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 七巳) 全員賛成。

よって、議案11号は原案のとおり可決されました。

議案第14号、平成25年度旭市病院事業会計補正予算の議決について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 七巳) 全員賛成。

よって、議案第14号は原案のとおり可決されました。

議案第16号、旭市歯と口腔の健康づくり推進条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 七巳) 全員賛成。

よって、議案第16号は原案のとおり可決されました。

議案第24号、旭市立保育所条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 七巳) 全員賛成。

よって、議案第24号は原案のとおり可決されました。

議案第25号、旭市児童遊園設置条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 七巳) 全員賛成。

よって、議案第25号は原案のとおり可決されました。

議案第26号、旭市ひとり親家庭等医療費等の助成に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 七巳) 全員賛成。

よって、議案第26号は原案のとおり可決されました。

議案第27号、旭市土砂等の埋立て等による土壌の汚染及び災害の発生の防止に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 七巳) 全員賛成。

よって、議案第27号は原案のとおり可決されました。

議案第31号、旭市社会教育委員に関する条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 七巳) 全員賛成。

よって、議案第31号は原案のとおり可決されました。

議案第33号、旭市病院事業使用料及び手数料条例の一部を改正する条例の制定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 七巳) 全員賛成。

よって、議案33号は原案のとおり可決されました。

議案第34号、訴えの提起について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 七巳) 全員賛成。

よって、議案第34号は原案のとおり可決されました。

議案第35号、指定管理者の指定について、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○委員長(林 七巳) 全員賛成。

よって、議案第35号は原案のとおり可決されました。

以上で、本委員会に付託されました議案の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては、委員長に一任願いたいと思いますが、これに異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長（林 七巳） ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

所管事項の報告

○委員長（林 七巳） 次に、所管事項の報告に入ります。

報告がある所管課は、随時報告してください。

庶務課長。

○庶務課長（横山秀喜） それでは、庶務課より今年度予定いたしました工事の進捗状況について申し上げます。

工事につきましては、今年度の補正予算でもいろいろ繰越手続き等をさせていただきまして、ありがとうございます。今年実施した事業につきましても、昨年度からの繰越事業、また今年度予算で実施する予定の事業等ありますので、それらについて進捗状況を申し上げます。

まず、昨年度からの繰越事業であります。

富浦小学校と三川小学校屋内運動場の防災機能強化工事につきましては、老朽化による改修と天井材の落下防止を目的に工事を実施し、完了いたしました。飯岡小学校東校舎につきましては、非常用として外階段を設置し、二方向避難を可能とする工事を完了いたしました。琴田小学校は、管理教室棟大規模改造工事、古城小学校については、屋外環境整備工事としてのグラウンド整備であり、これらは全て事業は完了しております。以上が繰越事業です。

また、今年度事業の滝郷小学校の屋外環境整備工事のグラウンド整備につきましても終了いたしました。なお、今年度事業であります嚶鳴小学校大規模改造工事につきましては、11月補正にて繰越予算のご承認をいただきました。現在は入札等の事務を進めているところでございます。

庶務課からは以上でございます。

○委員長（林 七巳） 高齢者福祉課長。

○高齢者福祉課長（石毛健一） 高齢者福祉課からは2点ご報告させていただきます。

最初に、東日本大震災の被災者に対する介護保険サービス利用料の減免期間の終了についてご報告申し上げます。

震災により住宅が半壊以上の被害を受けた介護サービス利用者の減免につきましては、震災発生日より実施していましたが、本年3月31日をもって減免期間を終了とすることといたしました。

次に、旭市第6期介護保険事業計画策定調査について、進捗状況をご報告申し上げます。

平成27年度から29年度までの3か年の高齢者福祉及び介護保険事業全般についての計画を策定するため、アンケート調査を実施いたしました。期間は、1月21日から2月3日までの期間で、対象者は、抽出により一般高齢者2,000人、要介護認定者1,500人の方に発送しました。また、介護支援専門員には57人に実施いたしました。回収につきましては、3種類合わせまして1,924通で、回収率は54.4%です。現在、調査の集積・分析、報告書の作成を進めているところでございます。

26年度におきましては、第6期の高齢者福祉計画、介護保険事業計画の策定業務を実施いたします。本年度実施のアンケート調査結果を踏まえ、将来人口の推計や介護保険の状況把握・分析を実施し、課題の整理及び取り組み方法等の検討を行い、策定委員会で検討していただきまして、事業量や保険料の算定を実施していく予定でございます。

報告は以上でございます。

○委員長（林 七巳） 子育て支援課長。

○子育て支援課長（山口訓子） それでは、子育て支援課から飯岡地域統合保育所について報告をさせていただきます。

統合保育所の建設工事につきましては、おかげさまをもちまして来週の3月17日完成に向け順調に進められております。

参考までに、この新しいいいおか保育所への入所児童数について申し上げます。飯岡中央保育所と三川保育所からの継続児童84名、それから新規入所児童33名を合わせまして117名の児童が入所する予定でございます。

なお、4月2日に開所式を予定しておりますので、議員の皆様方にはお忙しい中とは存じますがご出席をしていただきたく、この場をおかりしましてどうぞよろしく願いいたします。

子育て支援課からは以上でございます。

○委員長（林 七巳） 担当課の報告は終わりました。

それでは、ただいまの報告について何かお聞きしたいことがありましたら、お願いいたします。

(「なし」の声あり)

○委員長(林 七巳) 特にないようでございますので、所管事項の報告を終わります。

陳情の審査

○委員長(林 七巳) 次に、陳情の審査を行います。

保険年金課以外は、退席してください。

しばらく休憩いたします。そのまま自席でお待ちください。

休憩 午後 4時 2分

再開 午後 4時 4分

○委員長(林 七巳) 休憩前に引き続き会議を開きます。

去る3月4日の本会議におきまして本委員会に付託されました陳情は、陳情第2号、年金2.5%削減の中止を求める意見書提出を求める陳情の1件であります。

それでは、陳情第2号について審査に入ります。

保険年金課より参考意見がありましたらお願いいたします。

保険年金課長。

○保険年金課長(加瀬喜久) それでは、保険年金課より年金2.5%削減の経緯についてご説明いたします。

年金受給者の年金額には、物価の変動に応じて改定される物価スライドの仕組みが導入されております。前年度の消費者物価指数の変動に応じ、翌年4月から自動的に年金額が改定されます。しかし、平成12年度から平成14年度にかけて物価が下落したにもかかわらず年金額を特例的に据え置いた影響で、現在は法律が本来想定しています水準、本来水準よりも高い水準、特例水準の年金が支給されております。

平成25年9月の時点で特例水準は本来水準を2.5%上回っていました。このまま特例水準による年金給付を続けると、将来の年金受給者となる現役時代の年金水準の確保が難しくなりかねません。そこで、平成24年の年金制度改正により、年金財政の改善を図るとともに、

世代間の公平を図る観点から段階的に特例水準の解消を図られることが決定されました。

なお、特例水準2.5%の解消は、平成25年度から平成27年度までの3年間で段階的に実施されることになっており、平成25年10月に1.0%、平成26年4月に1.0%、平成27年4月に0.5%削減される予定でした。ただし、実際の支給額には物価・賃金の変動が反映されるため、物価・賃金が上昇すれば引き上げ幅は縮小し、下落すれば引き上げ幅は拡大するということで、実際は平成26年4月からは1.0%ではなく0.7%の減額になります。

担当課からは以上です。

○委員長（林 七巳） ありがとうございます。

ただいま担当課から参考意見がございましたが、何かお聞きしたいことがありましたら、お願いいたします。

佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） ここに書いてある特例水準の解消が毎年0.9%以上もというの、これは、そうすると違うんですね。陳情文の真ん中辺に書いてあるの。

○委員長（林 七巳） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

保険年金課長。

○保険年金課長（加瀬喜久） これは過去の平成12年から14年にかけての物価が下落したときに年金を下げなかったということで、それが2.5%、それが本来の水準より2.5%高いということで、それをこの25年度から27年度にかけて下げていこうということです。

○委員長（林 七巳） 佐久間委員。

○委員（佐久間茂樹） 今の説明で、平成26年は実際には0.7%だということでしょう。そうすると、ここに書いてある0.9%というのはまずいんじゃないのかなと思うんですけども、いいのかしら。

○委員長（林 七巳） 佐久間委員の質疑に対し、答弁を求めます。

保険年金課長。

○保険年金課長（加瀬喜久） 25年から27年にかけて、まず25年10月に1.0%下げまして、26年4月に1.0%、来年の4月に0.5%と、この1%、1%、0.5%で2.5%下げようというようなことです。でも、実際には最近物価が上がっていますんで、この4月からは0.7%ということに決まっています。

○委員長（林 七巳） ほかに質疑はありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 七巳） 特にないようですので、ここで執行部は退室してください。大変ご苦
労さまでした。

しばらく休憩いたします。

休憩 午後 4時 9分

再開 午後 4時 10分

○委員長（林 七巳） 休憩前に引き続き会議を開きます。

引き続き、陳情第2号について審査を行います。

ご意見がありましたらお願いいたします。

景山岩三郎委員。

○委員（景山岩三郎） 国のほうで法律が決まっているやつをやはりそれは尊重しなかつたら
しょうがないと思うんです。そういう考えです。

○委員長（林 七巳） 伊藤房代委員。

では、島田和雄委員、お先にお願いいたします。

○委員（島田和雄） 私もそういったような考えをしております。年金のほうもだいぶもらう
方がこれからどんどん多くなるといった中で、財源のほうの確保という面からいたしまして
も、こういった国の今現在のやり方で進めるしかないのかなというふうに考えております。

○委員長（林 七巳） ほかにございませんか。

米本委員。

○委員（米本弥一郎） 私も同じ意見でございまして、先ほどの説明の中にも、現在年金を納
めている若い働く世代の方々の将来の蓄えということも必要ですので、これは国の方針を尊
重したいと思います。

○委員長（林 七巳） ほかにございませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（林 七巳） 特にないようですので、陳情第2号の審査は終わります。

陳情の採決

○委員長（林 七巳） 次に、討論を省略して採決をいたします。

陳情第2号、年金2.5%削減の中止を求める意見書提出を求める陳情について、採択とするに賛成の方の起立を求めます。

（発言する人あり）

（賛成者起立）

○委員長（林 七巳） 賛成者なし。

よって、陳情第2号は不採択と決しました。

以上、本委員会に付託されました陳情の審査は終了いたしました。

なお、委員長報告につきましては委員長に一任願いたいと思いますが、これに異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（林 七巳） ご異議ないようでございますので、委員長報告は委員長一任とさせていただきます。

○委員長（林 七巳） 以上で審査は終了いたしました。

これにて本委員会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでした。

閉会 午後 4時15分

旭市議会委員会条例第30条第1項の規定により署名する。

旭市議会文教福祉常任委員会委員長 林 七 巳